

伊那市歴史文化基本構想
資料編

令和2年（2020）3月

伊那市教育委員会

目 次

資料編

1 伊那市の歴史年表	1
2 伊那市のなりたち(市町村合併の経過)	27
3 伊那市内周知の埋蔵文化財包蔵地一覧	29
4 埋蔵文化財発掘調査報告書一覧	39
5 古い地名調査報告書一覧	44

1 伊那市の歴史年表

※太字は全国的なできごと。

時代区分	西暦	和暦	内 容
人類史以前			・戸台付近より出土する化石のアンモナイトや三角貝が、約 2 億 5000～6500 万年前の海に生息していた。
旧石器時代	BC5～3 万年頃		・ 現在伊那谷で最も古い石器が使われた。 [この時代の遺跡：飯田市竹佐中原遺跡]
	BC3 万年頃		・市域内で黒曜石のナイフ型、剥片石器などの石器を使う人類が活動する。
	BC2 万年頃		・ このころの日本列島は第 4 氷河期の末である。 ・ 乗鞍・御岳・焼岳などの火山灰で厚い新期ローム層が形成される。 ・ ナイフ型石器・尖頭器・搔器・錐・刃器などが使用される。 [この時代の遺跡：宮の前遺跡(御園)]
旧石器時代 最末期から 縄文草創期	BC 1 万 5000 年頃		・ローム層の堆積により、神子柴段丘が形成される。 ・神子柴遺跡(南箕輪村)などで出土する「神子柴型石器」が製作される。
	BC1 万年頃		・ 火山灰の堆積が終わり、気候も温暖化する。 ・投槍に用いる有舌尖頭器が出現する。 [この時代の遺跡：月見松遺跡(小沢)]
縄文草創期 ～縄文早期	BC9000 年頃		・ 土器と弓矢が発明され、狩猟・漁労・採集を生業とする新しい生活様式が生まれる。 [この時代の遺跡：三ツ木遺跡(富県)]
縄文早期	BC7000 年頃		・市域内で押型文・貝殻条痕文のある子母口式土器が使われる。 ・このころから各地に集落が営まれる。
縄文前期	BC5000 年頃		・ 温暖化のピークを迎え、縄文人の生活力が向上する。 ・ 竪穴住居の数軒の集落ができ、土器は丸底から平底に変化する。
縄文中期	BC2500 年頃		・ 縄文文化の爛熟期を迎える。 ・ 集落が大規模化し、土器・石器ともに多様なものが作られる。 ・ 石棒、顔面付釣手形土器、顔面把手付土器などを用いた呪術的信仰も行われる。 [この時代の遺跡：御殿場遺跡(富県)・月見松遺跡(小沢)]
縄文後期	BC2000 年頃		・ 気候の冷涼化に伴い、低地に遺跡が移り、その数も減少する。 ・ 注口土器、磨消縄文土器が作られ、敷石住居が出現する。 ・百駄刈遺跡(西春近)の祭祀遺構が造られる。
縄文晩期	BC1000 年頃		・ 冷涼化は続き、降水量も増す。 ・伊那においても、東北・東海地方の文化の影響を受けた抜歯の風習がみられる。 [この時代の遺跡：野口遺跡(手良野口)]

時代区分	西暦	和暦	内 容
弥生前期	BC800 年頃		<ul style="list-style-type: none"> ・稲作農耕文化が北九州に伝わり、湿田で稲作が行われ、大陸より青銅器・鉄器が移入される。 ・気候は次第に温暖になり、弥生時代前期後葉には天竜川沿いに弥生文化が入ってくる。 [この時代の遺跡：大久保(荒神)遺跡(野底)]
弥生中期	BC100 年頃		<ul style="list-style-type: none"> ・伊那市域でも稲作が行われ、磨製石器も用いられる。 [この時代の遺跡：中村遺跡(中村・下島)、六道原遺跡(手良中坪)]
弥生後期	AD200 年頃		<ul style="list-style-type: none"> ・伊那市域でも鉄器が使用され、方形周溝墓が築かれる。大規模な集落ができ、環濠集落もできる。 ・このころから、三峰川の段丘などで、沢水を利用した水田耕作が始まる。 [この時代の遺跡：鳥井田遺跡(諏訪形)、中村遺跡(中村・下島)、金井原遺跡(上山田)]
	239		<ul style="list-style-type: none"> ・邪馬台国の女王卑弥呼が魏に遣いを送る。
古墳時代	300～500		<ul style="list-style-type: none"> ・権力の象徴としての古墳が築造され、埴輪も造られる。 ・土師器が使われ、鉄製農具が普及する。須恵器・甕が普及する。 ・県下に前方後方墳の弘法山古墳(松本市)、前方後円墳の森將軍塚古墳(千曲市)といった大型古墳が造られる。 ・老松場古墳群(東春近中組)が造られる。 [この時代の遺跡：堂垣外遺跡(笠原)]
	538	宣化 3	<ul style="list-style-type: none"> ・仏教が伝来する(一説に 552 年)。
	550	欽明 11	<ul style="list-style-type: none"> ・このころ、阿原古墳(富県)が築造される。 ・このころ、科野の伊那部成立か。 ・このころ、松島王墓古墳(前方後円墳、箕輪町)が造られる。 ・科野国造の金刺・他田氏の祖が科野国を支配する。伊那地方は金刺氏が優勢であった。 ・名廻東古墳にみられるように、群集墳が発達する。
	593	推古元	<ul style="list-style-type: none"> ・聖徳太子が摂政となる。
	645	大化元	<ul style="list-style-type: none"> ・大化改新が起こる。
	646	大化 2	<ul style="list-style-type: none"> ・東山道に科野国が置かれる。
飛鳥時代	672	(天武元)	<ul style="list-style-type: none"> ・壬申の乱が起こる。科野の兵も動く。
	694	(持統 8)	<ul style="list-style-type: none"> ・藤原宮に遷都する。 ・このころ、藤原宮へ伊那郡の産物が送られる。
	700	文武 4	<ul style="list-style-type: none"> ・このころ、信濃の諸牧が開かれる。
	701	大宝元	<ul style="list-style-type: none"> ・大宝律令を定める。
	702	大宝 2	<ul style="list-style-type: none"> ・古代東山道に代わり、「令制東山道」が開かれる。

※太字は全国的なできごと。

時代区分	西暦	和暦	内 容
奈良時代	710	和銅 3	・平城宮に遷都する。
	712	和銅 5	・『古事記』ができる。 ・科野国が信濃国と改められる。
	720	養老 4	・『日本書紀』ができる。
	721	養老 5	・信濃国を分け、諏方国を置く。伊那地方は諏方国に入る。
	731	天平 3	・諏方国を廃止し、信濃国に合併する。
	738	天平 10	・信濃国伊那郡小村郷から麻布が、中央官庁に進上される。
	759	天平宝字 3	・このころ、『万葉集』ができ、信濃に関する歌が 18 首みえる。
	779	宝亀 10	・このころ、甲斐国で作られた土師器が諏訪・上伊那・松本地方にもたらされる。
平安時代	794	延暦 13	・平安京(京都)へ遷都する。 [この時代の遺跡：原遺跡(山室)]
	801	延暦 20	・坂上田村麻呂、東征の途次、諏訪大明神の加護をうける。
	806	大同元	・各地に集落が発達し、竪穴式住居とともに集落の中央には高床式の倉庫が建てられる。 [この時代の遺跡：福島遺跡(福島)]
	815	弘仁 6	・このころ、最澄が東国へ布教に訪れる。
	816	弘仁 7	・慈覚大師により、仲仙寺の前身となる寺が経ヶ岳の麓に開かれる。
	823	弘仁 14	・信濃の御牧 16 牧の記述が『延喜式』に記載され、笠原牧も見える。
	894	寛平 6	・遣唐使派遣を中止する。
	937 頃	承平 7	・『倭名類聚抄』に郷名として小村・福智・旦(手)良等の名が記される。
	1009	寛弘 6	・このころ、檢校豊平が二条天皇から非持に屋敷と田畑を与えられる。
	1068	治暦 4	・浅間山の噴火が 2 か月にわたって続く。
	1108	天仁元年	・浅間山が再び噴火する。
	1156	保元元	・保元の乱が起こる。信濃のほとんどの豪族が源頼朝に従い戦う。
	1159	平治元	・平治の乱が起こる。信濃源氏の多くが源頼朝に従い戦うが、敗れて信濃各地に隠棲する。
	1167	仁安 2	・平清盛が太政大臣になる。
	1180	治承 4	・源頼朝が藤沢郷・黒河内郷を諏訪上社に寄進する(1184 年とも)。
	1183	寿永 2	・黒河内氏初代・黒河内義純が、黒河内に居館(後の神明城)をおく。
1185	元暦 2	・壇ノ浦の戦いで平氏が滅びる。	
鎌倉時代	1186	文治 2	・諏訪上下社領の黒河内荘と藤沢荘が、年貢の未進で頼朝から催促される。 ・藤沢盛景が黒河内・藤沢における非法を頼朝から許される。
	1192	建久 3	・源頼朝が征夷大将軍に任じられる。

時代区分	西暦	和暦	内 容
鎌倉時代	1193	建久 4	・曾我兄弟が工藤祐経(犬房丸の父)を討つ。
	1199	正治元	・小井亘為綱が信濃守護比企能員より大番役の催促をうける。
	1221	承久 3	・承久の乱がおこる。 ・伊那の諸武士、鎌倉幕府軍に属して戦う。福地十郎俊政が京軍に属して近江で戦う。
	1251	建長 3	・鎌倉幕府が小井亘二吉郷の地頭職を小井亘師能に安堵する。
	1274	文永 11	・元・高麗軍が博多湾へ上陸する(文永の役)。
	1281	弘安 4	・元・高麗軍が対馬・峯岐へ来襲する(弘安の役)。
	1324	正中元	・長谷の大揚寺が、門氣上人により開創される。
	1331	光厳 3(北)※ 元弘元(南)	・鎌倉幕府が光厳天皇を擁立し(北朝)、南北朝の対立構図となる。
	1332	正慶元(北) 元弘 2(南)	・小笠原貞宗らが、鎌倉幕府の命により京都に向かう。
南北朝時代	1333	正慶 2(北) 元弘 3(南)	・新田義貞の挙兵に信濃の武士が、多く加わる。 ・鎌倉幕府が滅亡する。 ・北条氏が滅び、北条高時の子・時行が諏訪に逃れ、高遠藤沢辺りに隠れる。
南北朝時代	1335	建武 2	・中先代の乱が起こる。 ・伊那の諸氏、横河城に籠って小笠原貞宗の軍と戦い、敗れる。 ・諏訪頼重らが北条時行を擁して鎌倉を攻めるも敗れ、頼重父子が自害する。 ・信濃各地にいた北条時行の残党を、小笠原貞宗らが破る。
室町時代	1338	暦応元(北) 延元 3(南)	・足利尊氏が室町幕府を開く。
	1340	暦応 3(北) 延元 5(南)	・笠原の阿弥陀堂の薬師如来坐像が造られる。 ・北条時行が伊那郡大徳王寺城で挙兵するが、小笠原貞宗に敗れる。
	1344	康永 3(北) 興国 5(南)	・宗良親王が伊那郡大河原の香坂高宗方に身を寄せる。
	1352	文和元(北) 正平 7(南)	・宗良親王軍が鎌倉を攻めるも敗れて信濃に退く。
	1355	文和 4(北) 正平 10(南)	・このころ、藤沢氏が箕輪進出の後に、諏訪大祝頼継の長子・諏訪信員が藤沢荘の地頭として高遠に入り、高遠氏の祖となる。 以後、7代にわたり高遠を支配する。
	1385	至徳 2(北) 元中 2(南)	・宗良親王が没する。
	1391	明德 2(北) 元中 8(南)	・大徳王子住職の尊仁が宗良親王像の胎内文書を記す。
	1392	明德 3(北) 元中 9(南)	・南北朝が統一される。
	1394	応永元	・小笠原氏長が溝口下ノ城に入り、溝口氏を名乗る。

※太字は全国的なできごと。

時代区分	西暦	和暦	内 容
室町時代	1400	応永 7	・信濃国守護の小笠原長秀が信濃諸武士の反乱に遭い、戦い敗れる(大塔合戦)。藤沢氏、笠原氏、大島氏、小井弓氏、春近の人々など、伊那の諸氏は小笠原軍に属して戦う。
	1412	応永 19	・山室の天福寺が谷宝山法華堂坊主に預けられる。
	1435	永享 7	・このころ、建福寺が諸山に列せられる。
	1440	永享 12	・ 結城氏朝ら関東の武士が、鎌倉公方足利持氏の遺児を奉じて室町幕府と戦う(結城合戦) 。伊那の「藤沢殿」、「甲斐沼殿」、「小井弓殿」が結城軍に属して戦う。
	1446	文安 3	・小笠原氏の家督争いが起こり、小笠原宗康方に黒河内正国、小笠原持長方に溝口秀重らが参戦する。
	1460	寛正元	・幕府が丈紀曇郁を伊那郡建福寺の住持とする。
	1467	応仁元	・ 応仁の乱がおこる。 ・諏訪上社が伊那廻湛の神事を行う。
	1473	文明 5	・羽広の山王権現社が再建される。
	1479	文明 11	・「高遠」の地名が初めて「守屋満實書留」に見える。
	1481	文明 13	・山田城主が諏訪氏のために敗れる。
	1482	文明 14	・高遠の諸族と諏訪の諸族が争う。
	1483	文明 15	・文明年間頃に遠照寺の釈迦堂が建立される。
	1487	長享元	・高遠の諏訪継宗が諏訪郡有賀を攻め、同郡福島も奪う。
	1493	明応 2	・伊那郡松尾の小笠原定基が、鈴岡の政秀父子を誘殺したため、筑摩府中の小笠原長朝らが松尾の小笠原定基を攻める。以後 40 年にわたり小笠原氏は府中と松尾に分かれて争う。
	1495	明応 4	・このころ、高遠の竜勝寺が栄える。
	1501	文亀元	・羽広の藤宝寺(後の仲仙寺)の仁王像が造られ、毘沙門・持国天像が修理される。
	1502	文亀 2	・原豊前守が遠照寺の釈迦堂内に多宝塔を造立する。
	1511	永正 8	・このころ、高遠の鉾持神社が栄える。
	1528	享禄元	・武田信虎が諏訪に攻め入り、上社方に敗れる。
	1535	天文 4	・武田信虎が諏訪頼満と和睦する。 ・黒河内朝成が諏訪頼重の旗下に属す。
	1540	天文 9	・諏訪頼重が武田信玄の妹を妻とする。 ・このころ、黒河内隼人政信が良城を築く。
	1541	天文 10	・高遠の諏訪頼継が武田信玄に内通する。 ・武田信虎が子の信玄によって追放され、駿河の今川義元を頼る。
	1542	天文 11	・武田信玄が、高遠の諏訪頼継と通じて諏訪頼重を討つ。諏訪氏の本流が減じる。

時代区分	西暦	和暦	内 容
室町時代	1542	天文 11	・高遠の諏訪頼継が信玄に反旗を翻す。高遠方が敗れ、武田の将が高遠に入り藤沢に放火する。
	1543	天文 12	・ 種子島に鉄砲が伝来する。
	1545	天文 14	・武田信玄が杖突峠から高遠を攻め、その後箕輪の福与城を攻める。福与城主の藤沢頼親と箕輪の諸氏は、籠城抗戦の後に降伏する。
	1547	天文 16	・武田信玄が高遠城の鉤立てを行う。
	1548	天文 17	・小笠原長時らが、村上・仁科・藤沢らと反武田同盟を結び、諏訪に乱入するも塩尻峠の戦いで敗れる。黒河内朝光が小笠原長時に協力する。
	1549	天文 18	・ フランシスコ・ザビエルがキリスト教を伝える。 ・武田軍が伊那に乱入する。高遠勢は杖突峠・青柳嶺・小豆坂で激戦を繰り広げたが、保科正俊が武田氏に内通し、敗れる。
	1552	天文 21	・高遠の諏訪頼継が遺臣の知行安堵を条件に甲府で生害し、高遠氏が滅ぶ。
	1553	天文 22	・ 第一次川中島合戦が起こる。以降 1564 年までに 4 回の合戦が行われる。
	1556	弘治 2	・溝口民部少輔正慶ら 8 人が武田信玄に抵抗し、狐島で処刑される(八人塚のおこり)。 ・このころ、武田信玄の将、秋山虎繁が高遠城主となる。 ・黒河内朝英が黒川に陰伏する。
	1560	永禄 3	・ 桶狭間の戦いが起こる。織田信長が今川義元を破る。
	1561	永禄 4	・川中島の戦いに黒河内八郎が参戦する。
	1562	永禄 5	・武田信玄が四男の勝頼を伊那郡代として高遠城に置き、諏訪氏を名乗らせる。 ・信玄が保科八郎左右衛門に伊那郡殿島・藤沢の地を与える。
	1568	永禄 11	・ 織田信長が足利義昭を奉じて上洛する。
	1570	元亀元	・武田勝頼が甲府に帰り、武田信廉が高遠城主となる。
	1571	元亀 2	・武田信玄が五男の五郎晴清を仁科五郎盛信と改名させ、安曇郡の仁科氏を継がせる。
	1572	元亀 3	・伊那の諸氏が武田氏に従い、遠江三方原に出陣する。
安土桃山時代	1573	天正元	・ 室町幕府が滅亡する。 ・ 武田信玄が伊那郡駒場で病死する。 ・炭住が高遠満光寺を再興する。
	1578	天正 6	・ 上杉謙信が没する。上杉家が分裂し、北信濃の諸武士も分かれて戦う。
	1581	天正 9	・武田信廉が大島城に移り、仁科盛信(信盛ともいう)が高遠城主となる。

※太字は全国的なできごと。

時代区分	西暦	和暦	内 容
安土桃山時代	1582	天正 10	<ul style="list-style-type: none"> ・織田信忠が高遠城を攻め、仁科五郎盛信は戦死する。 ・高遠城攻撃にあたり、織田軍が貝沼原に陣を敷く（一夜の城）。 ・武田氏が織田軍に敗れて滅亡する。 ・本能寺の変が起こる。 ・保科正直が徳川家康に属する。正直は高遠城主となり、伊那郡半分の地が与えられる。 ・伊那郡が徳川家康の勢力下に入る。 ・藤沢頼親の箕輪城が、保科正直に攻められて落城する。
	1583	天正 11	<ul style="list-style-type: none"> ・保科正直が建福寺に禁制を掲げる。
	1585	天正 13	<ul style="list-style-type: none"> ・小笠原貞慶が家康と絶ち、高遠城の保科氏を攻めて敗れる(鉾持棧道の戦)。
	1586	天正 14	<ul style="list-style-type: none"> ・羽柴秀吉が太政大臣となり、豊臣姓を受ける。
	1590	天正 18	<ul style="list-style-type: none"> ・豊臣秀吉が小田原の北条氏を攻める（小田原攻め）。信州の諸将もこれに加わる。 ・保科正直が下総国多胡に移り、高遠領は飯田城主・毛利秀頼の所領として、城代勝斉によって統治される。 ・毛利秀頼が、入野谷 5 か所を御囲山とする。
	1593	文禄 2	<ul style="list-style-type: none"> ・飯田城主の毛利秀頼が没し、京極高知が伊那郡を支配する。伊那・高遠は城代岩崎左門が統治する。 ・太閤検地が始まる。
	1600	慶長 5	<ul style="list-style-type: none"> ・関ヶ原の戦いが起こる。 ・伊那は徳川家康の蔵入地となり、朝日受永が伊那代官となる。 ・保科正光が 2 万 5 千石所領を宛われ、下総国多胡より高遠へ復帰する（高遠藩の成立）。 ・黒河内朝英が保科正直に仕え、黒河内を領する。
	1601	慶長 6	<ul style="list-style-type: none"> ・保科正直が没し、高遠建福寺に葬られる。
	1602	慶長 7	<ul style="list-style-type: none"> ・保科正光が伊那郡小出村を検地する。
	江戸時代	1603	慶長 8
1612		慶長 17	<ul style="list-style-type: none"> ・小笠原秀政が陣屋を木下へ移す。 ・江戸幕府がキリシタンを禁ずる。
1614		慶長 18	<ul style="list-style-type: none"> ・大坂冬の陣が起こる。保科正光・正貞も従軍する。 ・伊那街道の大改修が行われる。
1615		元和元	<ul style="list-style-type: none"> ・大坂夏の陣で豊臣氏が滅びる。 ・黒河内外記が保科氏に仕える。
1617		元和 3	<ul style="list-style-type: none"> ・2 代將軍徳川秀忠の実子・幸松(後の保科正之)が、高遠藩主・保科正光の養子となる。
1618		元和 4	<ul style="list-style-type: none"> ・保科正光が洗馬郷の 5 千石を加増され、高遠領が 3 万石となる。

時代区分	西暦	和暦	内 容
江戸時代	1619	元和 5	・『赤羽記』ができる。
	1623	元和 9	・ 徳川家光が 3 代将軍となる。
	1626	寛永 3	・ 諸国で大早魃となり、草木が枯れる。
	1631	寛永 8	・保科正之が家督を継ぎ、高遠城主になる。
	1633	寛永 10	・保科正之が江戸城外桜田御門内に屋敷を与えられる。
	1635	寛永 12	・ 参勤交代制が始まる。
	1636	寛永 13	・保科正之が最上 20 万石へ転封し、最上より鳥居忠春が 3 万 200 石で高遠へ入封する。正之の転封に伴い、上島帯刀、黒河内平兵衛、一ノ瀬勘兵衛等が譜代衆として随行する。
	1637	寛永 14	・鳥居忠春が黒河内氏に知行地 30 石・免地 5 反歩を与え、黒河内・浦・溝口の 3 か村の名主役と郷内木改役、城付鉄砲 5 挺分の軍役を命ずる。 ・まむし平採草地をめぐり、高遠領と箕輪領が境界を争う。 ・ 島原の乱がおこる。
	1639	寛永 16	・ ポルトガル船の来航が禁止される(鎖国)。
	1640	寛永 17	・高遠領中沢郷の四郎左衛門が、キリシタンとして捕えられ処刑される。 ・ 幕府、寺請・宗旨人別帳をつくる。
	1641	寛永 18	・ この年から 2 年間、諸国が早魃 秋暴風に見舞われ、大飢饉が起こり、餓死者が多数出たほか、米も高値となる。
	1643	寛永 20	・保科正之が最上から会津若松へ転封となり、23 万石の城主となる。 ・ 幕府が田畑永代売買禁止令を出す。 ・衣類について、庄屋の家は絹布木綿、脇百姓は木綿のみとするよう触状が出る。
	1645	正保 2	・飯田藩箕輪領で、梨木新田(西箕輪)の開発が行われる。
	1648	慶安元	・脇坂氏の箕輪領代官・加集空之助が大泉新田村を見立てる。
	1649	慶安 2	・ 幕府が検地条目を制定する。 ・春日街道の大泉宿などを廃し、伊那街道北殿・大泉合宿ができる。
	1653	承応 2	・脇坂安親が羽広山仲仙寺へ絵馬を奉納する。
	1654	承応 3	・ この頃までに五人組制度ができる。 ・高遠領内の農民に逃散するものが出る。
	1655	明暦元	・佐久の柳沢弥左衛門・市川五郎兵衛の両人が貝沼原開発のため、新井筋の建設に着手する。
	1656	明暦 2	・鳥居氏が高遠領内の検地を行う。 ・高遠領入野谷郷戸台川筋 15 か所、三峰川 19 か所が御立山に指定される。 ・藤沢北原に庚申塔が建てられる(上伊那で最も古い庚申塔)。
1658	万治元	・三峰川で大洪水が起こる。	

※太字は全国的なできごと。

時代区分	西暦	和暦	内 容
江戸時代	1663	寛文 3	・高遠藩主の鳥居忠春が亡くなり、鳥居忠則が高遠藩主となる。
	1665	寛文 5	・ この頃から信濃各藩で宗門改帳が作られる。 ・高遠領内の絹布の尺を定める。
	1666	寛文 6	・高遠藩が城下の酒屋株・酒造石数を定める。
	1670	寛文 10	・高遠藩主・鳥居忠則の弟・忠辰が、幕府の中奥小姓となる。
	1672	寛文 12	・飯田藩主・脇坂安政が播磨国竜野へ転封し、箕輪領は幕府領(天領)となり、飯島陣屋付となる。
	1673	延宝元	・ 幕府が分地制限令を出す。
	1675	延宝 3	・高遠領川下り郷野底村の百姓が欠落(逃散)し、屋敷および田畑が売却される。
	1681	天和元	・高遠領内の藤沢御堂垣外宿が整備され、甲州道中並の伝馬賃銭となる。栗田、四日市場宿が創置される。
	1687	貞享 4	・高遠藩役所が箕輪領豪農漆戸家より 110 両を借用する。
	1689	元禄 2	・高遠藩主・鳥居忠則が改易となり、城と領地は松本藩主・水野忠道が預かり、所領は一時天領となる。 ・溝口村が藩に「信州高遠領溝口村萬書上帳」を提出する。 ・非持山の上村蓮台地籍に馬頭観音ができる(長谷で最も古い馬頭観音)。
	1690	元禄 3	・高遠領内の村々が総検地について、難渋願いを提出する。 ・高遠領内の村々に検地野帳を改めさせ、検地帳を下付する。 ・幕府が松代藩に命じ、高遠領総検地を行う。新石高が 39,327 石となる。 ・溝口、非持、荊口、山室の 4 か村が木師郷村への加入を拒否される。
	1691	元禄 4	・高遠領入野谷郷黒河内村で村内の鉄砲改めを行う。 ・摂津国富田(現大阪府)から内藤清枚が高遠藩主として入封する。石高 3 万 3 千石。 ・清枚が家中法度 28 か条を発布する。 ・検地によって打ち出された 6 千余石は幕府領となる。
	1693	元禄 6	・中馬稼ぎの禁止を求めて伊那 16 か宿の間屋が、中馬業者と松本商人を相手取り訴訟を起こす。
	1694	元禄 7	・前年の中馬訴訟の裁定が出て、中馬稼ぎが従来通り認められる。
	1696	元禄 9	・権兵衛街道が開かれ、翌年より伊那米の木曾への移送が始まる。
	1697	元禄 10	・高遠領の「城下町絵図并家数間数役付帳」が作成される。 ・高遠町方各戸の間口奥行を測り伝馬役、人足役をきめる。
1699	元禄 12	・ 全国各地で大雨による洪水が発生し、飢饉となる(元禄の飢饉)。 ・高遠領内で類族キリシタン改めが行われる。	

時代区分	西暦	和暦	内 容
江戸時代	1703	元禄 16	・高遠城下に火消制度ができる。 ・宗門改めの結果、高遠藩の領民が 38,100 人余を数える。
	1704	宝永元	・ 抜け参り(無許可での伊勢参り)の風習が信濃一円に広まる。
	1706	宝永 3	・筑摩郡の中馬と伊那郡の中馬の間で紛争が起こり、通し馬・継ぎ馬が自由となる。
	1707	宝永 4	・ 富士山が大噴火をする。 伊那地方にも灰が降る。 ・ 南海・東海大地震が起こる。 高遠城も破損する。
	1709	宝永 6	・ 新井白石が幕政改革を行う。
	1710	宝永 7	・入野谷 4 か村(黒河内 溝口 市野瀬 非持)の惣百姓が、幕府巡見使に「唐傘連判状」を出して訴願する。
	1711	正徳元	・高遠藩主・内藤清枚が家中に儉約令を布達する。
	1712	正徳 2	・伊那の 24 か村が木曾 3 宿の大助郷に指定され、この年から木曾助郷が始まる。 ・幕府が入野谷の濫伐禁止令を出す。 ・溝口宮の窪に長谷で最も古い庚申塔の 1 つが造られる。
	1713	正徳 3	・高遠藩役所に新職制として、水の手役が設置される。
	1714	正徳 4	・江戸城大奥の年寄・絵島が高遠へ遠流となり、非持村火打平の囲み屋敷に入れられる。
	1715	正徳 5	・天竜川、三峰川流域で大洪水が起こる。死者 33 名、流失家屋 64 軒、橋 36 基、田畑 7800 余石の土地失うほどの未曾有の災害となる(正徳の「未の満水」)。
	1716	享保元	・ 徳川吉宗が 8 代将軍となり、享保の改革が始まる。 ・洪水が起こり、下新田周辺が被災する。
	1718	享保 3	・仲仙寺の楼門が造られる。 ・この年、伊那郡で旱魃と虫害により凶作となる。
	1719	享保 4	・絵島が非持村より高遠城下花畑の囲み屋敷に移される。 ・高遠領内では飢饉となり、藩役所が扶持米 2,790 石を配布する。
	1722	享保 7	・ 上米の制を定める。 ・このころ新田開発が進む。
	1723	享保 8	・高遠藩が領内百姓の分地分家を禁止する。
	1724	享保 9	・老犬沢論争が起こり、溝口・非持村の境について藩役所で裁許する。 ・このころ伊那郡で甘藷(サツマイモ)の栽培が始まる。
	1725	享保 10	・樽木の金納化が始まる。 ・高遠藩が兵制改革を行う。
	1726	享保 11	・天竜川で大洪水が発生し、春近郷表木村の枝郷・鍛冶ヶ島村 30 戸が全戸流失する。

※太字は全国的なできごと。

時代区分	西暦	和暦	内 容
江戸時代	1727	享保 12	・山室川橋が大破損し、御囲山より老木 3 本の払い下げを願い出る。
	1730	享保 15	・溝口村常福寺庫裡修復用の材木を川下げする。
	1738	元文 3	・天竜川で大洪水が発生し、民家や人馬に大きな被害が出る。凶作のため、米価が高騰する。
	1739	元文 4	・高遠町で大火となり、170 戸を焼失する。 ・高遠藩が定免制を施行するが、3 分の 1 は検見取となる。
	1740	元文 5	・関盛胤が『伊那温知集』を著す。 ・このころ、各地に庚申塔が建てられる。
	1741	寛保元	・青木昆陽が高遠藩内の古書を採訪する。 ・絵島が花畑の囲屋敷で死去する(享年 61 歳)。遺言により日蓮宗蓮華寺に葬られる。
	1742	寛保 2	・高遠藩主・内藤頼由が家中法度 13 か条を発布する。
	1743	寛保 3	・「高藩探勝」絵巻が完成する。 ・伊那・佐久・小県の幕府領 159 か村が松本藩預かりとなる。
	1744	延享元	・三州の菅沼定次が高遠満光寺の鍾樓門を建てる。
	1745	延享 2	・阪本天山が東高遠荒町の屋敷に生まれる。
	1746	延享 3	・高遠藩が天竜川沿岸に小梁場を設け、定法を布達する。
	1749	寛延 2	・『新著問集』に孝行猿の物語が収められる。
	1750	寛延 3	・高遠城下で大火となり、町の大半を焼失する。
	1754	宝暦 4	・宇津木の薬師堂が有賀吉左衛門により建てられる。 ・非持村中馬が藤沢中馬に加わる。 ・藤沢、入野谷中馬が名古屋問屋に出入りしていた下伊那中馬の仲間となる。
	1756	宝暦 6	・除道の一部、「埜の日影」を改修する。 ・非持村と非持山村の分村について、村定 24 か条を決める。
	1759	宝暦 9	・高遠城下で大火となる。 ・非持村正随寺本堂に用いる木材を川下げする。 ・非持山七面堂が白鳥弥四郎、池上佐源治らによって建築される。
	1763	宝暦 13	・ 全国的に大早魃となり凶作となる。 ・熱田神社の本殿が造立される。大工・高見善八、彫刻・関口文次郎、粉色・森田清吉による。
	1764	明和元	・幕府が信州全域の中馬に関する裁許書を出す(明和の中馬一件裁許)。
	1766	明和 3	・天竜川渡船について殿島 3 か村が規定を決める。
	1768	明和 5	・中尾村の小松浅右衛門が四国の旅芸人から義太夫を伝授される(中尾歌舞伎の始まり)。

時代区分	西暦	和暦	内 容
江戸時代	1770	明和 7	・早魘のため、溝口村が藩に実地検分を訴願する。
	1772	安永元	・天竜川流域で洪水が起こる。 中村伯先が江戸に遊学し、医儒両学を学ぶ。
	1773	安永 2	・高遠藩が「領内備蓄米定書」を出し、備荒制度を整える。翌年には高遠領民 1 万 5 千人余が備蓄米 154 石を積み立てる。
	1776	安永 5	・高遠藩主・内藤頼由が隠居し、頼尚が家督を継ぐ。
	1777	安永 6	・高遠藩が農民の江戸での奉公稼ぎを禁じる。 ・このころ藩専売・家内工業が盛んになる。
	1778	安永 7	・阪本天山が周発台を発明し試射する。
	1779	安永 8	・葛上紀流が郷土誌『木の下蔭』を著す。 ・山室川橋の橋木簀子を川下げする。
	1783	天明 3	・ 浅間山が大噴火し、死者が 2 万人に及ぶ。 ・ 飢饉が 4 年間続く（天明の大飢饉）。 ・菅江真澄が伊那路を通り、殿島村等に滞在する。
	1784	天明 4	・高遠藩郡代の阪本天山ら一行が宮田から駒ヶ岳に登り、「勒銘石」を残す。 ・高遠領内で凶作となる。
	1786	天明 6	・中村伯先が句集『葛の葉表』を著す。 ・高遠領内で凶作となり、岩崎宅右衛門が凶作検分をする。
	1787	天明 7	・ 米価が高騰し、江戸・大坂で打ちこわしが発生する。 ・ 松平定信が老中となり、寛政の改革が始まる。 ・高遠領内では凶作のため、飢渴者に飢扶持を支給する。
	1789	寛政元	・三峰川流域で洪水が発生し、長谷地域の低地の大半が水没する（西の満水）。
	1791	寛政 3	・高遠藩主・内藤長好が没し、頼以が家督を継ぐ。
	1792	寛政 4	・天竜川流域で大洪水が発生し、多くの田畑が流失するなど、甚大な被害が発生する。
	1795	寛政 7	・阪本天山が『火砲説』を著す。
	1796	寛政 8	・除道の大改修が行われる。
	1797	寛政 9	・阪本天山が『国友紀行』を著す。
	1798	寛政 10	・三峰川流域で大洪水が発生し、上殿島村では田畑 4 町 6 反歩余が流失する。 ・中村元恒が京都に遊学し、医学・儒学を学ぶ。
	1800	寛政 12	・阪本天山が高遠を離れ、長崎へ旅立つ。 ・星野葛山が高遠城の歴史書『高遠記集成』を著す。 ・各地で庚申塔が建てられる。

※太字は全国的なできごと。

時代区分	西暦	和暦	内容
江戸時代	1803	享和 3	・阪本天山が長崎で没する。高遠峰山寺に墓が建てられる。
	1804	文化元	・高遠藩士の石川重左衛門が長崎でレザノフより世界地図を得て、模写する。
	1806	文化 3	・このころ、笠原紙の生産が始まる。 ・高遠や伊那の石工が各地で活躍する。
	1809	文化 6	・南小河内(現箕輪町)の矢島敏彦が関流の和算を伊那谷に広める。
	1811	文化 8	・伊能忠敬が測量のため、三河より伊那路を通る。
	1812	文化 9	・藤沢や三義で産出する石灰を諏訪地方へ移出し始める。 ・中村元恒が『伊那志略』を著す。
	1813	文化 10	・狐島村の北沢勝兵衛が江戸に出て曾根直次郎に心学を学ぶ。 ・西春近小出諏訪社の本殿が棟梁・立川富昌の手により造立される。 ・中村元恒が『路原拾葉』の集成に着手する。
	1814	文化 11	・高遠藩が美濃から陶工・加藤宇兵衛を呼び、勝間河原に窯を築き、高遠焼を始める。 ・鞠ヶ鼻井筋の改修工事に着手する。
	1815	文化 12	・山室の石工・北原佐吉が東海道由比宿の桃源寺に七観音の大作を造立する。
	1817	文化 14	・羽広村の林宗賢が『養蚕秘伝集』を著す。
	1820	文政 3	・長藤塩供の石仏師・守屋貞治が、高遠建福寺や桂泉院の石仏を彫刻する。 ・高遠藩主・内藤頼以が隠居し、頼寧が家督を継ぐ。
	1821	文政 4	・細田恭文が現春近神社に算額を奉納する。 ・荊口村の「刈敷割山符定書之事」がまとめられる。
	1822	文政 5	・高遠藩が財政改革を行い、急才覚金を上納させる。 ・高遠藩が特別奉公として百姓に木綿織、草鞋の上納を命じたため、領内で百姓一揆がおこる(興津騒動・洗馬騒動)。
	1824	文政 7	・中村元恒が高遠藩儒となる。『路原拾葉正編』150 巻をまとめる。 ・天竜川通船に対して、高遠領の村々30 か村が難渋筋を申し出る。
	1827	文政 10	・「分杭書替普請」が行われ、入野谷 16 か村で賄う。
	1828	文政 11	・高遠領内の河川で洪水が起こり、殿島村の渡船が流失する。 ・このころから中尾歌舞伎が盛んになる。 ・羽広村の林宗賢が『飢餓用心集』を著す。
	1829	文政 12	・心学者・北沢勝兵衛と北原邦太郎が『積善禄』を刊行する。 ・高鳥谷神社が棟梁・立川富昌の手により造営される。
	1830	天保元	・天竜川通船が中馬村々の承諾により始まる。 ・南非持に刈敷割山ができる。

時代区分	西暦	和暦	内 容
江戸時代	1832	天保 3	<ul style="list-style-type: none"> ・この年から7年間、全国的な飢饉が続く（天保の大飢饉）。 ・高遠藩の岡村菊叟が城下に産物会所を建てる。 ・藩の奨励策をうけて、笠原と芦沢において紙（笠原紙）の生産が盛んになる。 ・石仏師・守屋貞治が没する。
	1833	天保 4	<ul style="list-style-type: none"> ・杉島村の伊東伝兵衛によって鞠ヶ鼻井筋が完成する。
	1834	天保 5	<ul style="list-style-type: none"> ・高遠藩が藩営桑園をつくり、領内に桑苗植付世話役を任命する。 ・高遠城下で2回の大火があり、町の大半が焼失する。
	1836	天保 7	<ul style="list-style-type: none"> ・高遠藩が村々の飢渴者へ1人5升の御救米と1戸につき200文を下賜する。
	1840	天保 11	<ul style="list-style-type: none"> ・伊那部宿で大火がある。 ・高遠藩内藤家の拝地150年祭が行われる。 ・高遠藩が文武殖産興業政策を実施する。 ・伊東伝兵衛がこの年までに「三峰川筋御新開場」を5か所造る。
	1841	天保 12	<ul style="list-style-type: none"> ・老中の水野忠邦が天保の改革を始める。 ・高遠藩が高遠焼の生産を民営とする。
	1842	天保 13	<ul style="list-style-type: none"> ・高遠藩が領内に儉約令を布達する。
	1843	天保 14	<ul style="list-style-type: none"> ・伊那部宿で再び大火がある。 ・高遠藩が財政改革にあたり、9か条を申し渡す。 ・殿島村の北沢正延が「夕陽学舎」を開設し、人々に国学や漢学を教える。
	1845	弘化 2	<ul style="list-style-type: none"> ・中村元起が高遠藩儒となる。 ・宇津木薬師堂に三十三観音が造られる。
	1846	弘化 3	<ul style="list-style-type: none"> ・伊那部宿の須田経哲が江戸に出て蘭学や医学を学ぶ。
	1847	弘化 4	<ul style="list-style-type: none"> ・善光寺大地震が起こる。伊那地方も強く揺れる。 ・三義赤坂から高遠城下まで御用水・月蔵井筋を引くため、高遠藩が直営で工事を行う。
	1848	嘉永元	<ul style="list-style-type: none"> ・六道原の新田開発が始まる。
	1849	嘉永 2	<ul style="list-style-type: none"> ・六道の堤(溜池)の工事が始まる。 ・美篤末広新田の開発のため、高遠藩が六道一番井の開削を始める。 ・中村元恒が高遠藩に財政窮乏の打開策を請願するも却下され、黒河内に流謫される。
	1850	嘉永 3	<ul style="list-style-type: none"> ・高遠藩直営の末広新田開発工事が完了する。 ・中村元恒が和泉原に塾居中に『黒水一滴』や『八人塚碑記』を著す。
	1851	嘉永 4	<ul style="list-style-type: none"> 須田経哲が伊那部宿で西洋医術を開業する。

※太字は全国的なできごと。

時代区分	西暦	和暦	内 容
江戸時代	1853	嘉永 6	<ul style="list-style-type: none"> ・ペリーが軍艦 4 隻を率いて浦賀に来航する。 ・品川沖御台場普請に高遠石工百余人が参加する。 ・高遠藩が洗馬郷から桑苗を購入し、領内で試作する。京都から織工を招き、絹織物業を奨励する。
	1854	安政元	・幕府が日米和親条約に調印する。
	1855	安政 2	・高遠領内より木曾三宿への助郷が人足 7,199 人、馬 1,330 頭へのぼる。
	1857	安政 4	・三峰川が氾濫し、領主が被害地の検分を行う。
	1858	安政 5	<ul style="list-style-type: none"> ・幕府が日米修好通商条約に調印する。 ・オランダ、ロシア、イギリス、フランスと条約調印する(安政五か国条約)。 ・江戸や甲州方面から「コロリ(コレラ)」が伝染し、流行する。 ・俳人・井上井月が伊那に来て住む。 ・川下り郷の三峰川沿いと、春近郷の天竜川沿いで国役普請を行い、人足 10 万 4 千人、金 2,500 両をかけて完成する。 ・除新道、8 か村の普請で完成する。
	1859	安政 6	・分杭の書替普請が行われ、費用の 8 割を市野瀬村と中尾村の 2 村で負担する。
	1860	万延元	<ul style="list-style-type: none"> ・大老・井伊直弼が水戸浪士に暗殺される(桜田門外の変)。 ・高遠藩校(後の進徳館)が開設される。 ・各地で庚申塔が建てられる。
	1861	文久元	<ul style="list-style-type: none"> ・皇女和宮降嫁の行列が中山道を通行する。 ・須田経哲が江戸でクロロホルムを使用した手術を初めて行う。
	1862	文久 2	<ul style="list-style-type: none"> ・他国出稼ぎの石工が最多となり、入野谷郷で 337 人、長谷地域では 72 名にのぼった。 ・高遠領内 73 か村が和宮下向時の助郷人馬賃金をめぐり、3 度訴訟を行う。
	1864	元治元	<ul style="list-style-type: none"> ・第 1 次長州征討が起こる。高遠藩も幕府軍として大坂へ出陣する。 ・武田耕雲斎らの水戸浪士が伊那谷を通行し、伊那部宿で休む。 ・非持村ほか 8 か村が山室川橋の普請を行う。 ・臼田五稜郭(竜岡城)の築城に溝口村の石工・中山兼太郎が加わる。
	1865	慶応元	<ul style="list-style-type: none"> ・第 2 次長州征討が起こる。高遠藩も幕府軍として参加する。 ・溝口村の阿弥陀堂に俳額が掲げられる。 ・中尾歌舞伎が盛んになる。
	1866	慶応 2	<ul style="list-style-type: none"> ・木曾騒動鎮圧のため、松本藩と高遠藩が出動する。 ・高遠藩の領内河川が洪水に見舞われ凶作となり、殿坂に御救小屋が建てられる。

時代区分	西暦	和暦	内 容
	1867	慶応 3	<ul style="list-style-type: none"> 各地で「ええじゃないか」騒ぎがおこり、神仏のお札が降る。高遠城下では 4 日間、大泉村では 3 日間もの騒ぎとなる。 大政奉還が行われ、王政復古の大号令が発せられる。
	1868	慶応 4	<ul style="list-style-type: none"> 戊申戦争が起こる。 高遠藩が越後方面へ出兵する。 府藩県三治制により、上伊那は高遠藩と伊那県になる。 江戸が東京に改められる。 飯島陣屋が伊那県庁となり、初代知事に北小路俊昌が任命される。
明治時代	1868	明治元	<ul style="list-style-type: none"> 明治と改元される。
	1869	明治 2	<ul style="list-style-type: none"> 高遠藩主・内藤頼直が版籍奉還を行い、藩知事に任命される。 二分金騒動が起こる。 入野谷郷と中沢郷で農民騒動が起こり、18 か条の歎願を掲げて高遠へ押し寄せる(入野谷騒動)。これに入野谷郷 16 か村の村民 2,000 人が加わる。
	1870	明治 3	<ul style="list-style-type: none"> 杉島橋が完成する。
	1871	明治 4	<ul style="list-style-type: none"> 内藤頼直が旧領内村々の神社に武具を寄進する。 廃藩置県が行われる。高遠藩が高遠県となり、内藤頼直が県知事となる。 筑摩県が設置され、中南信と飛騨が管下に入る。これにより伊那県と高遠県が廃止される。
	1872	明治 5	<ul style="list-style-type: none"> 筑摩県管内が 199 区に分けられ、上伊那は 29 区となる。 全国で戸籍調査が行われる(壬申戸籍)。 高遠城が取り壊される。 郵便取扱所が高遠・伊那部・松島・御堂垣外に開設され、郵便事業が始まる。 学制が発布される。 新橋－横浜間に鉄道が開通する。
	1873	明治 6	<ul style="list-style-type: none"> 太陽暦が採用される。 徴兵令を布告される。 筑摩県下で大区小区制が施行され、上伊那は 4 つの大区に分けられる。 政府が地租改正条例を布告する。
	1874	明治 7	<ul style="list-style-type: none"> 伊那に人力車が現れる。 坂下、荒井などが合併し、伊那村が誕生する。 長尾無墨が筑摩県権令と共に県下の教育状況を視察し、『説論要略』を著す。 高遠満光寺で大博覧会が開かれる。

※太字は全国的なできごと。

時代区分	西暦	和暦	内 容
明治時代	1875	明治 8	<ul style="list-style-type: none"> ・小村が合併し、伊那部・美篤・沢岡・富県・東春近・西春近・西箕輪・東高遠・西高遠・長谷・河合の各村が誕生する。 ※太字は全国的なできごと。 ・伊澤修二が師範学科取調べのため、アメリカに留学する。 ・太政官布告により、高遠城址が高遠公園となる。
	1876	明治 9	<ul style="list-style-type: none"> ・国道・県道・里道の制度が定まる。伊那街道と岡谷街道が 2 等県道に指定される。 ・筑摩県を廃止し、長野県へ合併される。 ・このころから高遠城跡に桜が植えられ始める。
	1877	明治 10	<ul style="list-style-type: none"> ・西南戦争おこる。 ・鷹岩井筋が通水する。
	1878	明治 11	<ul style="list-style-type: none"> ・400 年にわたる老犬沢論争が終結し、鹿嶺南斜面の不動岩に村界を刻む。
	1879	明治 12	<ul style="list-style-type: none"> ・県内 10 郡を 16 郡に区分し、郡役所が設置される。上伊那郡役所は伊那村常円寺を仮庁舎として開庁する。
	1881	明治 14	<ul style="list-style-type: none"> ・福島村が沢岡村から分村する。
	1882	明治 15	<ul style="list-style-type: none"> ・日本銀行が開業する。
	1883	明治 16	<ul style="list-style-type: none"> ・上伊那郡下の人力車が 206 台を数える。 ・沢岡村からさらに野口村と中坪村が分村する。 ・河合村が非持・山室・荊口・芝平・勝間・小原・上山田・下山田に分村し、長谷村は溝口・黒河内・中尾・市野瀬・杉島・浦に分村する。
	1884	明治 17	<ul style="list-style-type: none"> ・高遠にキリスト教会できる。
	1885	明治 18	<ul style="list-style-type: none"> ・伊那電信分局が開設され、電報を取り扱うようになる。 ・連合戸長役場の制度となり、上伊那 57 か町村が 14 連合町村と 6 単独村となる。
	1886	明治 19	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校令・中学校令・師範学校令が公布され、翌年施行する。 ・県土木条規により、伊那街道が三州街道となる。 ・伊那警察署が発足する。 ・上伊那蚕業組合が設立される。
	1889	明治 22	<ul style="list-style-type: none"> ・大日本帝国憲法が公布される。 ・市制・町村制が施行される。 ・一郡一校制により郡立上伊那高等小学校が開校し、本校が伊那村、分校が赤穂・中箕輪・高遠に置かれる。 ・上伊那郡役所が伊那村荒井に新築落成する。 ・池上秀畝が荒木寛畝の門に入り、日本画の研究をする。
	1890	明治 23	<ul style="list-style-type: none"> ・第 1 回衆議院議員選挙が行われ、中村弥六が初当選する(以後連続 10 回当選)。 ・教育勅語が公布される。 ・伊澤修二が初代東京音楽学校長となる。

時代区分	西暦	和暦	内 容
明治時代	1891	明治 24	<ul style="list-style-type: none"> ・郡制が施行される。 ・初の上伊那郡会が開かれる。 ・府県制が施行される。 ・中尾の小松五郎九郎が台本『菅原伝授手習鑑』を写す。
	1892	明治 25	<ul style="list-style-type: none"> ・伊那－高遠間に初めて電信が架設される。
	1893	明治 26	<ul style="list-style-type: none"> ・中央線の伊那谷通過期成同盟会が結成される。 ・三州街道の改修が終わり、馬車の通行が可能になる。 ・このころ、天竜川の通船(船運業)が盛んになる。
	1894	明治 27	<ul style="list-style-type: none"> ・国鉄中央線の本曾谷通過が決定する。 ・日清戦争始まり、翌年講和条約が結ばれる。
	1895	明治 28	<ul style="list-style-type: none"> ・上伊那簡易農学校(現上伊那農業高校)が開校する。
	1896	明治 29	<ul style="list-style-type: none"> ・伊那郡下の人力車が 265 台を数える。
	1897	明治 30	<ul style="list-style-type: none"> ・天竜川に橋が架設される。 ・伊那村が町制施行で伊那町となる。
	1898	明治 31	<ul style="list-style-type: none"> ・東春近村の飯島国俊ら養蚕家が、上伊那合資会社を設立し、製糸工場の経営を始める。
	1899	明治 32	<ul style="list-style-type: none"> ・伊那電車軌道敷設計画が認可される。 ・上伊那郡生糸同業組合ができる。 ・両川手、青島堤防の復築工事が完成する。
	1900	明治 33	<ul style="list-style-type: none"> ・このころ、上伊那に自転車が入る。 ・中村弥六がフィリピン独立運動支援のため、布引丸で武器を輸送する途中で船が沈没し、国際問題となる。 ・伊那－高遠間に乗合馬車走る。
	1901	明治 34	<ul style="list-style-type: none"> ・天竜川に架設の伊那大橋が完成する。 ・金融恐慌がおこる。
	1902	明治 35	<ul style="list-style-type: none"> ・中村不折が洋画研究のためフランスに留学する。
	1903	明治 36	<ul style="list-style-type: none"> ・伊那－飯田間の天竜川通船にかかる回漕店の営業認可が下りる。
	1904	明治 37	<ul style="list-style-type: none"> ・日露戦争が始まり、翌年講和条約が結ばれる。 ・郡立上伊那甲種農業学校が県立移管となり、長野県上伊那郡甲種農業学校と改称される。 ・上伊那郡下では、養蚕収入が米生産額を上回るようになる。 ・このころ、上伊那最初の常設劇場、旭座が開場する。
	1905	明治 38	<ul style="list-style-type: none"> ・有限責任上伊那生糸販売組合が設立される。
	1906	明治 39	<ul style="list-style-type: none"> ・西天竜用水路期成同盟会が設立される。
	1907	明治 40	<ul style="list-style-type: none"> ・伊那電車軌道株式会社が設立される。
1908	明治 41	<ul style="list-style-type: none"> ・伊那電車軌道の第 1 期工事(辰野－伊那町間)に着手する。 ・糸価低落のため、養蚕業が停滞し、農村不況に陥る。 	

※太字は全国的なできごと。

時代区分	西暦	和暦	内 容
明治時代	1910	明治 43	・電話が開通し、伊那・赤穂・平出・松島・西春近に各局が置かれる。 ・伊那電車軌道の木下－松島間が開通する。
	1911	明治 44	・町立伊那実科女学校(現伊那弥生ヶ丘高校)が開校する。 ・南信自動車株式会社が伊那町－飯田間の乗合自動車営業を始める。 ・伊那町図書館が開設する。
	1912	明治 45	・伊那電車軌道の伊那松島－伊那町間が開通する。
大正時代		大正元	・ 明治天皇が崩御する。大正と改元される。
	1913	大正 2	・上伊那最初の発電所である小黒発電所が完成する。 ・中箕輪小学校の生徒らが西駒ヶ岳で遭難する。 ・伊那電車軌道の伊那町－宮田間が開通する。
	1914	大正 3	・有限責任伊那生糸販売組合連合会竜水社が発足する。 ・ 第一次世界大戦が勃発する。
	1915	大正 4	・西駒ヶ岳に石室造りの山小屋ができる。
	1916	大正 5	・田山花袋が蓮華寺の絵島の墓に詣でる。
	1917	大正 6	・高遠－伊那町間のバス路線が認可される。
	1918	大正 7	・伊那電気軌道(株)と飯田電燈(株)が合併する。 ・ 米騒動が起こる。
	1919	大正 8	・伊那町の大火で 144 戸が焼失したほか、上伊那郡役所、伊那女学校等も焼失する。 ・西天竜耕地整理組合の設立が認可される。 ・伊那電車軌道が社名を伊那電気鉄道と改称する。 ・ 糸価が最高値となり、蚕糸業界は空前の好景気となる。
	1920	大正 9	・長野県伊那中学校(現伊那北高校)が開校する。 ・伊那実科女学校を伊那高等女学校と改称する。
	1921	大正 10	・上伊那教育会編『上伊那郡史』が発刊される。
	1922	大正 11	・伊那高等女学校が県立に移管される。 ・西天竜水路幹線導水路工事に着手する。
	1923	大正 12	・建福寺の紙本墨画中観音左右龍虎図が国重要文化財に指定される。 ・伊那電鉄の辰野－飯田間が全線開通する。 ・ 関東大震災が起こる。
	1924	大正 13	・ ラジオ放送が始まる。 ・伊澤多喜男が台湾総督となる。
	1925	大正 14	・ 治安維持法が公布される。
	1926	大正 15	・町立高遠実業補習学校(現高遠高校)が開設され、町立高遠青年訓練所も併設となる。 ・上伊那郡役所を廃止する。

時代区分	西暦	和暦	内 容
昭和時代	1926	昭和元	・ 大正天皇崩御。昭和と改元される。
	1927	昭和 2	・ 金融恐慌が始まる。 ・西天竜幹線導水路が完成し、翌年から開田工事が行われる。 ・伊那電鉄の辰野－天竜峡間が全線開通する。
	1930	昭和 5	・ 農村恐慌が起こる。 ・上伊那図書館が開館する。
	1931	昭和 6	・ 満州事変が勃発する。
	1932	昭和 7	・組合製糸として竜水社傘下の 22 工場が 5 工場に整理統合する。
	1933	昭和 8	・ 日本が国際連盟を脱退する。 ・市野瀬堤防が完成し、25 町歩の水田ができる。
	1936	昭和 11	・伊那電が三信鉄道と連絡し、豊橋までつながる。 ・高遠城址公園に高遠閣が完成する。
	1937	昭和 12	・ 日中戦争が始まる。
	1938	昭和 13	・伊那商業学校の設立が認可される。
	1939	昭和 14	・西天竜用水事業が完成し、1,177 町歩の水田や 196 町歩の畑が開かれ、灌漑水路の延長は 73 里余りになる。 ・浦と黒河内の森林鉄道建設工事に着手する。 ・帝室林野局木曾支局伊那出張所が開設される。
	1940	昭和 15	・伊澤多喜男が東京市長になる。
	1941	昭和 16	・ 国民学校令が施行し、小学校が国民学校となる。 ・ 太平洋戦争が始まる。 ・伊澤多喜男が枢密顧問官になる。
	1942	昭和 17	・町立伊那高等家政女学校(現伊那弥生ヶ丘高校に戦後統合)が設立される。 ・上伊那の満蒙開拓義勇軍が入植を始める。
	1943	昭和 18	・伊那電鉄・三信鉄道・鳳来寺鉄道が国有となり、飯田線となる。 ・陸軍伊那飛行場の建設が始まる。
	1944	昭和 19	・ 学徒勤労動員が実施される。 ・高千穂光学工業株式会社(現オリンパス株式会社)が、伊那町に工場疎開する。 ・学童集団疎開が始まり、市域でも各所で受け入れる。
	1945	昭和 20	・ 太平洋戦争が終戦となる。 ・長谷地域の三峰川で洪水が起こり、堤防が決壊する。 ・進駐軍が 10 月から翌年 1 月まで、上伊那図書館に駐留する。
1946	昭和 21	・ 農地改革が実施される。 ・伊那北国民学校(現伊那北小)が伊那国民学校から独立する。 ・長谷地域の三峰川で洪水が起こり、堤防が決壊する。 ・ 日本国憲法が公布される。	

※太字は全国的なできごと。

時代区分	西暦	和暦	内 容
昭和時代	1947	昭和 22	<ul style="list-style-type: none"> ・新学制(6・3制)が施行し、各町村に中学校が開校し、国民学校は小学校になる。 ・皇室林野局木曾支局伊那出張所が伊那営林署となる。 ・錦町に町立伊那中央病院が開院する（翌年、天竜町に移転）。
	1948	昭和 23	<ul style="list-style-type: none"> ・国鉄バス高遠線が開設される。高遠－伊那里間も開通する。 ・伊那商業学校が閉校し、市域内に伊那北・伊那南(翌年弥生ヶ丘と改称)・上伊那農・伊那東・高遠の新制高等学校が発足する。 ・各町村に農業協同組合が設立される。
	1950	昭和 25	<ul style="list-style-type: none"> ・伊那小の小沢・横山両分教場を統合し、伊那西小学校が開校する。 ・朝鮮戦争が始まる。特需景気が起こる。 ・遠照寺釈迦堂と堂内の多宝小塔が国重要文化財に指定される。
	1951	昭和 26	<ul style="list-style-type: none"> ・サンフランシスコ講和条約が締結される。 ・中央アルプスが県立公園に指定される。 ・長谷地域の大犬沢トンネルが貫通する。
	1952	昭和 27	<ul style="list-style-type: none"> ・小松五左衛門(鶴太夫)により、中尾歌舞伎が復活する。
	1953	昭和 28	<ul style="list-style-type: none"> ・NHK がテレビ本放送を開始する。
	1954	昭和 29	<ul style="list-style-type: none"> ・伊那町・西箕輪・手良・美篤・富県・東春近各村の合併で伊那市が誕生する(人口 46,349 人、面積 172.12k m²)。 ・西箕輪中曾根集落が分市し、中箕輪町へ合併する。
	1956	昭和 31	<ul style="list-style-type: none"> ・二軒家集落が箕輪町から編入する。 ・黒河内の森林鉄道が廃止される。 ・美和ダム工事が着工する。 ・高遠町、長藤村、三義村が合併して新高遠町となる。
	1958	昭和 33	<ul style="list-style-type: none"> ・西箕輪小学校与地分校が閉校する。 ・藤沢村が高遠町に合併する。 ・春近発電所が開設される。 ・神子柴遺跡の発掘調査が行われる。 ・高遠ダムが完成する。
	1959	昭和 34	<ul style="list-style-type: none"> ・美和村・伊那里村が合併して長谷村が発足する。 ・六道原に 230ha が開田する。 ・高遠・長藤・三義・藤沢中学校が統合し、町立高遠中学校となる。 ・伊勢湾台風が襲来し、各地で被害が発生する。 ・美和ダムが完成する。
	1960	昭和 35	<ul style="list-style-type: none"> ・高遠の常盤・諸町で大火が起こる。 ・進徳館が県宝、高遠公園内のコヒガンザクラ樹林が県天然記念物に指定される。 ・伊那の中央橋が完成する。

時代区分	西暦	和暦	内 容
昭和時代	1961	昭和 36	<ul style="list-style-type: none"> ・高遠中学校の新校舎が開校する。 ・長谷の中尾橋、千代橋、奥戸橋が完成する。 ・浦集落からの移転が始まる。 ・梅雨前線豪雨により三六災害が発生する。 ・県営西天竜発電所が開所する。
	1962	昭和 37	<ul style="list-style-type: none"> ・伊那市立東部中学校が開校する。 ・西箕輪の前平のサワラが県天然記念物に指定される。 ・中尾に三峰川電力第一発電所が完成する。
	1963	昭和 38	<ul style="list-style-type: none"> ・長谷の三峰川橋が完成する。 ・山寺の白山社八幡社合殿やきもち踊りの習俗が県選択無形民俗文化財になる。 ・伊那市・西春近村組合立春富中学校が開校する。 ・伊那里・美和中学校を統合し、長谷中学校が開校する。
	1964	昭和 39	<ul style="list-style-type: none"> ・南アルプスが国立公園に指定される。 ・河南村が高遠町へ合併し、河南中学校も高遠中学校に統合される。 ・高遠城跡が県史跡に指定される。 ・東京オリンピックが開催される。
	1965	昭和 40	<ul style="list-style-type: none"> ・西春近村を伊那市に合併する(人口 51,932 人、面積 208.75km²)。 ・西春近の白沢のクマガイが県天然記念物に指定される。
	1966	昭和 41	<ul style="list-style-type: none"> ・富県の御殿場遺跡で発掘調査が行われ、顔面付釣手形土器が出土する。 ・学校法人信州学園伊那女子(現伊那西)高等学校が開校する。 ・仙丈ヶ岳に避難小屋が完成する。
	1967	昭和 42	<ul style="list-style-type: none"> ・絵島囲み屋敷の復元建物が完成する。 ・上伊那郷土館が完成する。 ・中央道通過地の遺跡分布調査が行われ、16 遺跡を確認する。
	1968	昭和 43	<ul style="list-style-type: none"> ・小沢の月見松遺跡で発掘調査が行われ、顔面把手付大深鉢が出土する。 ・笠原の堂垣外遺跡で発掘調査が行われ、古墳時代前期住居址が見つかり、大和朝廷の伊那進出が裏付けられる。 ・南アルプス林道戸台大橋が完成する。
	1969	昭和 44	<ul style="list-style-type: none"> ・西箕輪小学校北分校が閉校する。 ・富県の阿原古墳で発掘調査が行われる。 ・非持井一貫水路が完成する。 ・美和一貫水路が完成する。
	1970	昭和 45	<ul style="list-style-type: none"> ・桂泉院梵鐘が県宝に指定される。 ・高遠町が三宅村と友好町村盟約を締結する。 ・長谷村が過疎地域の指定を受ける。

※太字は全国的なできごと。

時代区分	西暦	和暦	内 容
昭和時代	1971	昭和 46	・高遠町が過疎地域対策緊急措置法の地域指定をうける。 ・富県の御殿場遺跡が県史跡に指定される。
	1972	昭和 47	・ 札幌冬季オリンピックが開催される。 ・国道 153 号伊那バイパスが全線開通する。 ・中央道建設に伴い市内 16 遺跡で発掘調査が行われる。 ・8 つの農協が合併し、伊那農業協同組合が設立する。
	1973	昭和 48	・鹿嶺牧場が閉鎖される。 ・高遠城跡が国の史跡に指定される。
	1974	昭和 49	・上伊那農業高等学校が南箕輪村に移転する。 ・保養センター「仙流荘」が完成する。
	1975	昭和 50	・県伊那合同庁舎が完成する。 ・高遠町で町制施行 100 年記念式典が行われる。 ・中央道自動車道西宮線中津川－駒ヶ根間が開通する。
	1976	昭和 51	・保養センター「羽広荘」が完成する。 ・美和・伊那里両小学校が統合し、長谷小学校が開校する。 ・伊那市考古資料館が開館する。 ・中央自動車道西宮線駒ヶ根－伊北インター間が開通する。 ・分杭峠に「従是北高遠領」の碑が復元される。
	1978	昭和 53	・高校駅伝伊那大会が始まる。 ・中央アルプス西駒山荘を新築する。 ・過疎地域集落整備により、芝平 37 戸が上山田地区へ移転する。
	1979	昭和 54	・長藤・藤沢小学校が閉校し、高遠北小学校が開校する。 ・南アルプス林道が完成する。 ・『高遠町誌下巻(自然・現代・民俗)』が刊行される。 (『上巻歴史編』は昭和 58 年、『人物編』は昭和 61 年に刊行。)
	1980	昭和 55	・南アルプス林道が開通する。
	1981	昭和 56	・小豆坂トンネルが全面開通する。 ・伊那インターアクセス道路が完成する。 ・『伊那市史(自然編)』が刊行される。 (『現代編』は昭和 57 年、『歴史編』は昭和 59 年に刊行。)
	1982	昭和 57	・台風 10・18 号が襲来し、長谷地域では戸台川の氾濫、仙流荘一部流失、三峰川橋の崩壊など、甚大な被害が発生する。 ・中央自動車道西宮線全線、343.9km が開通する。
	1983	昭和 58	・台風 10 号の豪雨により広域で災害が発生する。 ・伊那市総合運動場(現伊那市陸上競技場)が完成する。 ・過疎地域集落整備により、荊口 18 戸が上山田地区へ移転する。

時代区分	西暦	和暦	内 容
昭和時代	1984	昭和 59	<ul style="list-style-type: none"> ・国道 361 号(経ヶ岳線)が開通する。 ・中央自動車道高速バス伊那－新宿間が運行開始する。 ・長谷村が静岡県福田町(現磐田市)と友好町村盟約を締結する。 ・高遠・河南小学校が統合し、新高遠小学校が開校する。 ・高遠高等学校が東高遠から瀬戸に移転する。
	1985	昭和 60	<ul style="list-style-type: none"> ・旧伊那女子高等学校跡地に伊那西高等学校が開校する。 ・戸草ダムについて建設省との協定書に調印する。 ・新水神橋が完成する。
	1986	昭和 61	<ul style="list-style-type: none"> ・伊那インター工業団地 40ha の造成が完了する。 ・高遠町が新宿区との友好提携に調印する。 ・高遠町文化センターが完成し、高遠町図書館が開館する。 ・高遠町で町村合併 30 周年記念式典が行われる。 ・小松武志・西村清典らが中尾歌舞伎を再々復活する。
	1987	昭和 62	<ul style="list-style-type: none"> ・国鉄が分割民営化する。飯田線は東海旅客鉄道(JR 東海)の管轄になる。 ・第 1 回伊澤修二先生記念祭を開催する。 ・商家池上家民俗資料館が開館する。
	1988	昭和 63	<ul style="list-style-type: none"> ・神子柴遺跡出土品が国重要文化財に指定される。 ・長谷の大犬沢橋が完成する。 ・県伊那文化会館が完成する。
平成時代	1989	平成元	<ul style="list-style-type: none"> ・昭和天皇が崩御する。元号が平成に改元される。 ・新たな三峰川総合開発事業がスタートする。 ・御殿場遺跡出土の顔面付釣手型土器が国重要文化財に指定される。 ・国道 256 号小原工区が竣工し、白山トンネルが開通する。
	1990	平成 2	<ul style="list-style-type: none"> ・高遠城址公園が日本さくらの名所 100 選に認定される。 ・伊那西部中部広域農道が全線開通する。
	1991	平成 3	<ul style="list-style-type: none"> ・湾岸戦争が起こる。 ・バブルが崩壊する。 ・ソ連が崩壊する。 ・村道鹿嶺線の道路整備が完了する ・高遠町で町村合併 35 周年記念式典が行われる。 ・非持に絵島囲み屋敷跡公園が完成する。
	1992	平成 4	<ul style="list-style-type: none"> ・道の駅南アルプス村がオープンする。 ・信州高遠美術館が開館する。 ・南アルプスサミットが開催される。
	1993	平成 5	<ul style="list-style-type: none"> ・東春近田原で大規模山林火災が発生する。

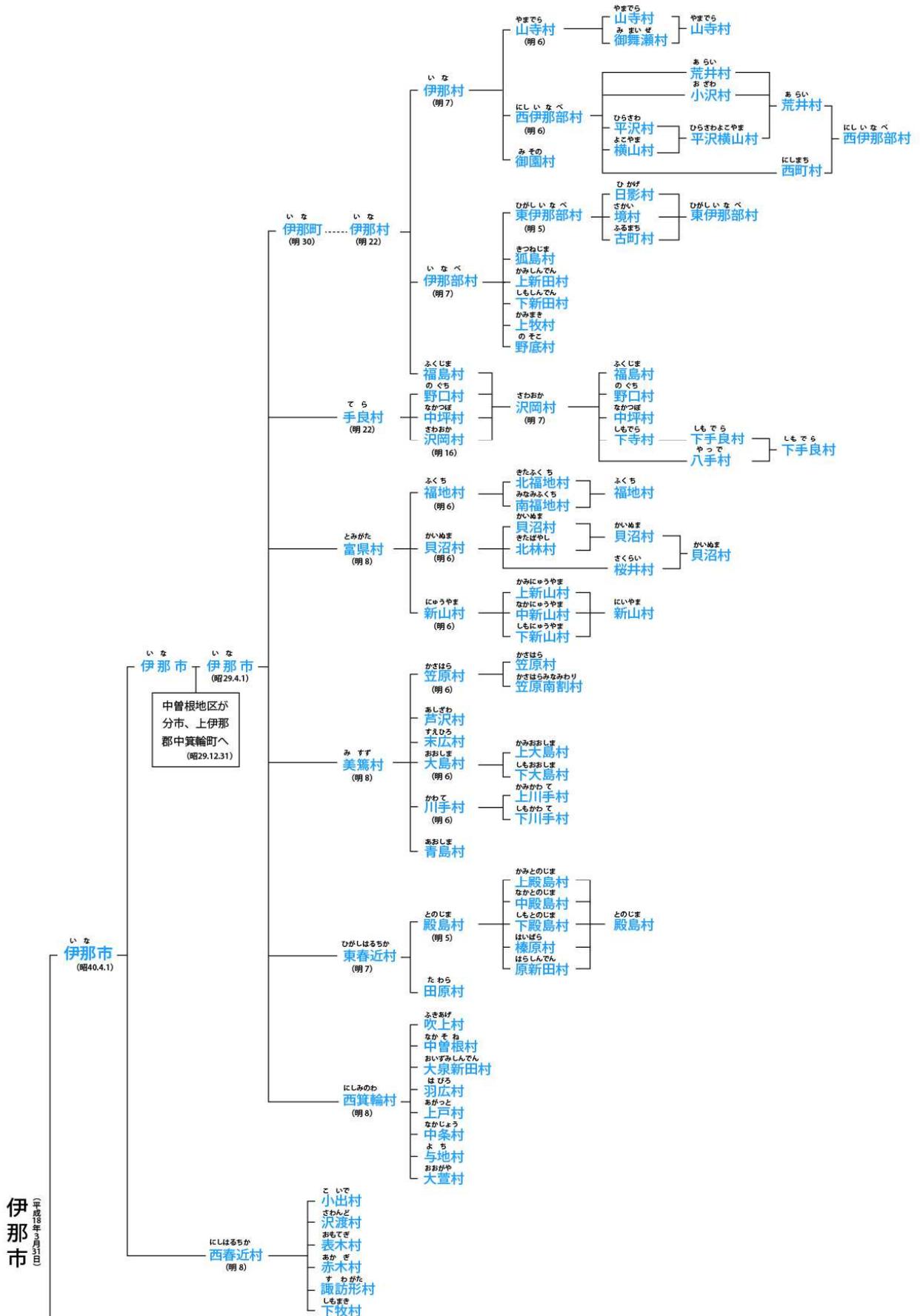
※太字は全国的なできごと。

時代区分	西暦	和暦	内 容
平成時代	1993	平成 5	<ul style="list-style-type: none"> ・平成大橋が完成する。 ・伊那市役所が下新田に移転し、新庁舎が開庁する。 ・長谷の熱田神社本殿が国重要文化財に指定される。 ・『長谷村誌第一巻民俗編人物編』が刊行される。 (『二巻自然編現代社会編』は平成 6 年、『三巻歴史編』は平成 9 年に刊行)
	1994	平成 6	<ul style="list-style-type: none"> ・白山橋が開通する。 ・伊那市立図書館が開館する。 ・伊那市が愛知県知立市と友好都市を締結する。 ・伊那市が中国北京市通県(現通州区)と友好都市を締結する。
	1995	平成 7	<ul style="list-style-type: none"> ・阪神淡路大震災が起こる。 ・高遠さくらホテルがオープンする。
	1996	平成 8	<ul style="list-style-type: none"> ・(都)環状南線(ナイスロード)が開通する。 ・高遠町立歴史博物館が開館する。
	1997	平成 9	<ul style="list-style-type: none"> ・まほら伊那羽広温泉みはらしの湯が営業開始する。 ・長谷伝統文化伝承施設(中尾座)が完成する。
	1998	平成 10	<ul style="list-style-type: none"> ・長野冬季オリンピック・パラリンピックが開催される ・南アルプス生涯学習センター「入野谷」が完成する。 ・小黒川大橋が完成する。
	1999	平成 11	<ul style="list-style-type: none"> ・はびろ農業公園「みはらしファーム」がグランドオープンする。 ・上伊那広域連合が発足する。
	2000	平成 12	<ul style="list-style-type: none"> ・高遠大橋が開通する。 ・花の丘ループ橋が完成する。 ・高遠町が会津若松市と親善交流を締結する。
	2001	平成 13	<ul style="list-style-type: none"> ・市民体育館、県伊那勤労者福祉センターが開館する。
	2002	平成 14	<ul style="list-style-type: none"> ・高遠閣が登録有形文化財になる。
	2003	平成 15	<ul style="list-style-type: none"> ・市道原田井 1 号線が完成し、小黒川大橋 - 新中央病院間が直結開通する。 ・上伊那図書館が閉館する。 ・伊那中央病院が現在地へ移転する。 ・旧馬島家住宅が県宝に指定される。 ・国道 361 号権兵衛トンネルが貫通する。 ・民俗資料館高遠なつかし館が開館する。
	2004	平成 16	<ul style="list-style-type: none"> ・高遠町が福島県猪苗代町と親善交流を締結する。 ・伊那市・高遠町・長谷村の合併協議会が設立される。 ・台風 23 号により、市内各地で被害が発生する。

時代区分	西暦	和暦	内 容
平成時代	2005	平成 17	<ul style="list-style-type: none"> ・伊那市・高遠町・長谷村合併協定書調印式が行われる。 ・仲仙寺の木造金剛力士立像(阿形像及び吽形像)が県宝に指定される。
	2006	平成 18	<ul style="list-style-type: none"> ・伊那木曾連絡道路権兵衛トンネルが開通する。 ・高遠町で閉町記念式典、長谷村で閉村記念式典が行われる。 ・伊那市・高遠町・長谷村の合併により、新伊那市が誕生する。 (人口 73,824 人、面積 667.81k m²) ・高遠城が日本 100 名城に認定される。 ・伊那市が新宿区と友好提携を締結する。 ・集中豪雨により、市内各地で災害が発生する。
	2007	平成 19	<ul style="list-style-type: none"> ・市の歌、花、木、鳥が決定する。
	2008	平成 20	<ul style="list-style-type: none"> ・(都)環状北線が開通し、伊那インターアクセスと国道 153 号がつながる。 ・南アルプス(中央構造線エリア)ジオパークが日本ジオパークに認定される。
	2010	平成 22	<ul style="list-style-type: none"> ・国道 152 号高遠バイパスが開通する。 ・伊那市が会津若松市と親善交流を締結する。 ・伊那市創造館が開館する。
	2011	平成 23	<ul style="list-style-type: none"> ・東日本大震災が発生する。
	2013	平成 25	<ul style="list-style-type: none"> ・南アルプス長谷ビジターセンターが開所する。
	2014	平成 26	<ul style="list-style-type: none"> ・南アルプス地域がユネスコエコパークに登録される。
	2015	平成 27	<ul style="list-style-type: none"> ・「日本で最も美しい村」連合に高遠町地域自治区が新規加盟する。
	2016	平成 28	<ul style="list-style-type: none"> ・西駒山荘石室が登録有形文化財になる。 ・伊那市民憲章が制定される。
	2017	平成 29	<ul style="list-style-type: none"> ・小黒川スマートインターチェンジが開通する。 ・老松場古墳群の発掘調査が開始される。
	2018	平成 30	<ul style="list-style-type: none"> ・進徳の森と中村弥六の関連資料群が林業遺産に登録される。 ・一時中断していた中尾歌舞伎の再開公演が行われる。 ・信州伊那中尾歌舞伎後援会が発足する。 ・市内出土の土器 10 点を含む、信州の特色ある縄文土器が県宝に指定される。 ・環屋(旧中村家住宅)がオープンする。
	令和時代	2019	令和元

【参考文献】 本年表は、『伊那市ふるさと百科』掲載の年表を元に、下記を参考として一部加筆・修正したものです。
 朝尾直弘ほか編『新版 日本史辞典』(角川書店/1996年)
 伊那市史編纂委員会『伊那市史現代編』(伊那市史刊行会/1982年)
 竹入弘元監修『ふるさと再発見 伊那市の歴史』(一草舎出版/2005年)
 春日博人ほか『伊那市ふるさと百科—あすの暮らしを育む文化事典—』(新葉社/2007年)
 長谷川正次『高遠四百年—高遠藩時代史—』(しんこう社/平成14年)

2 伊那市のなりたち(市町村合併の経過)



※次頁に続く

※地名の読み方については、諸説あります。

※前頁に続く

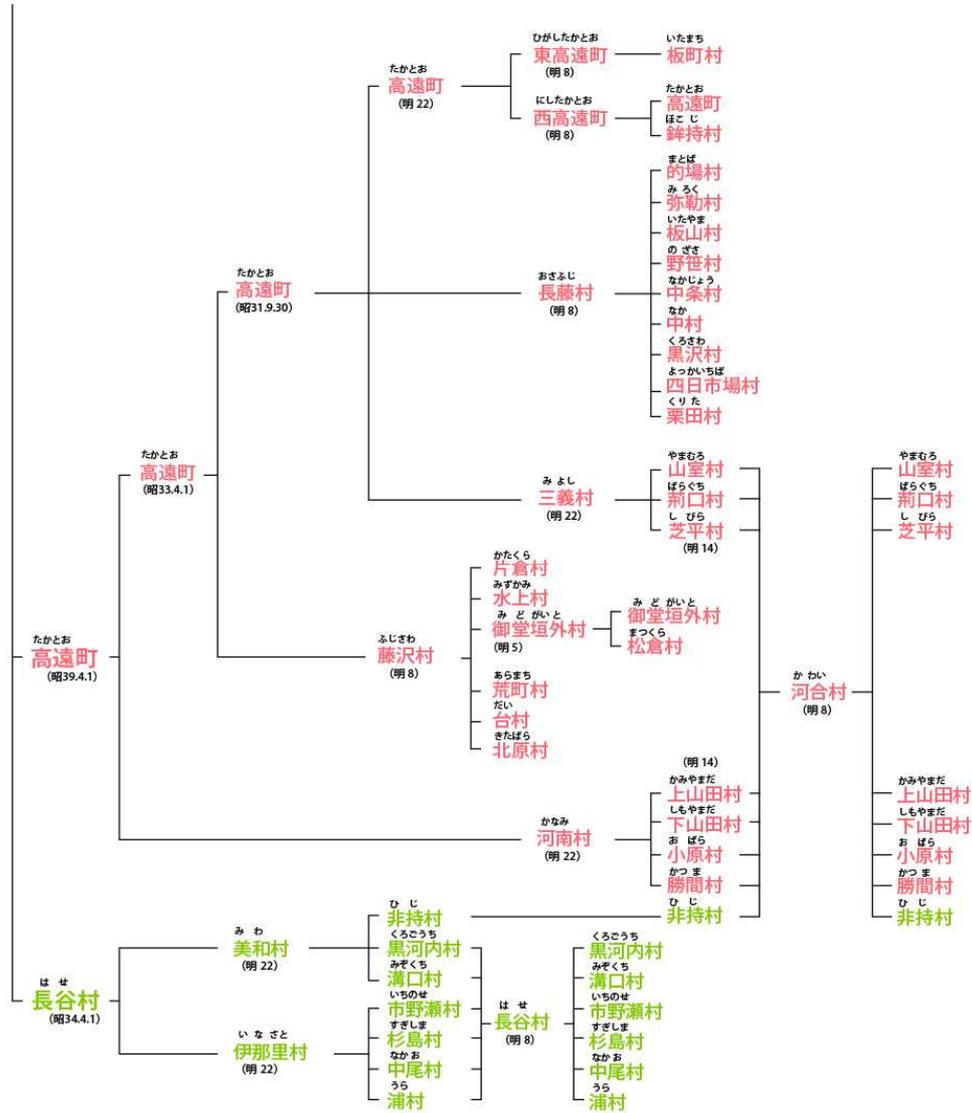


図. 伊那市のなりたち(市町村合併の経過)

※地名の読み方については、諸説あります。

【参考文献】

伊那市『伊那市ふるさと百科 -あすの暮らしを育む文化事典-』（株式会社 新葉社／平成 19 年）

長野県『長野縣町村誌南信篇 -復刻版-』（株式会社 名著出版／昭和 48 年）

3 伊那市内周知の埋蔵文化財包蔵地一覧

遺跡番号	遺跡名	フリガナ	所在地	主な時代						種別	発掘歴	消滅 (一部)	消滅 (全部)	報告書 整理番号	
				旧	縄	弥	古	奈	平						中
1	桜畑	サクラハタ	西箕輪 吹上		■					■			○	○	47
2	中道南	ナカミチミ	〃		■										
3	塚畑	ツカハタ	西箕輪 大泉新田		■								○	○	15
4	久保田	クボタ	〃		■					■					
5	高根	タカネ	〃		■	■							○		211
6	北割	キタワリ	西箕輪 羽広		■	■							○	○	24,207
7	田代	タノロ	〃		■										
8	経ヶ岳山麓	キョウガタケサンロク	〃							■	■		○		210
9	古屋敷	フルヤシキ	〃		■	■					■		○	○	16,207
10	蔵鹿山麓	ゾウロクサンロク	〃	■											
11	金鑄場	カネイバ	〃		■					■	■		○	○	27,36,77, 78,209,211
12	財木	サイモク	〃		■								○	○	27
13	西箕輪小学校北	ニシミノシヨウガウコウキタ	西箕輪 大萱							■			○		203
14	大萱西	オオガヤニシ	〃	■	■								○	○	7
15	伊那養護学校北	イナヨウゴガウコウキタ	〃	■									○		202,205,209
16	在家	ザイケ	〃		■					■			○		210,1002
17	熊野神社	クマノジンジャ	〃		■						■				
18	富士塚	フジツカ	〃			■				■	■				
19	殿屋敷	トヤシキ	西箕輪 上戸		■										
20	堂洞	ドウホラ	西箕輪 中条							■					
21	上の原	ウエノハラ	〃							■					
22	小花岡	コハナオカ	〃		■								○	○	42
23	与地山寺	ヨチヤマテラ	西箕輪 与地		■										
24	与地原	ヨチハラ	〃		■								○	○	24,25
25	上戸	アガツ	西箕輪 上戸		■										
26	天庄 I	テンショウイチ	西箕輪 中条		■										
27	天庄 II	テンショウニ	〃	■	■								○	○	42
28	溝畑	ミゾハタ	〃							■					
29	下の原	シモハラ	〃		■										
30	富士垣外	フジガイ	〃		■										
31	宮垣外	ミヤガイ	西箕輪 上戸		■	■				■			○	○	42
32	堀の内	ホリウチ	西箕輪 中条		■						■		○	○	42
33	中の原	ナカノハラ	〃		■	■				■			○	○	16
34	牧ヶ原	マキガハラ	伊那(竜西) 御園	■	■								○		209
35	大清水	オオシミズ	〃		■										
36	清水洞	シミズホラ	〃		■	■				■					
37	宮の前	ミヤノマエ	〃	■	■	■				■					
38	御園東部	ミツノウヅ	〃		■										
39	御園南部	ミツノナンブ	〃		■					■					
40	石塚	イシヅカ	伊那(竜西) 山寺		■						■		○	○	81,84
41	今泉	イマズミ	〃		■								○	○	19,92
42	原垣外	ハラガイ	〃		■										
43	鳥居原	トリイハラ	〃		■					■			○	○	
44	高尾	タカオ	〃		■								○	○	89
45	月見松	ツキミマツ	伊那(竜西) 下小沢	■	■	■				■	■		○	○	4,8,18,1004

遺跡番号	遺跡名	フリガナ	所在地	主な時代							種別	発掘歴	消滅(一部)	消滅(全部)	報告書整理番号	
				旧	縄	弥	古	奈	平	中						近
46	月見松経塚	ツキミツキョウヅカ	〃									集落跡	○		○	8
47	小沢神社	オサワシんじゃ	伊那(竜西) 小沢									散布地				
48	北方	キタキタ	伊那(竜西) 横山									集落跡				
49	矢塚畑	ヤツカハタ	〃									集落跡				
50	八人塚	ハチニンヅカ	伊那(竜西) 平沢									集落跡	○	○		34
51	関畑	セキハタ	伊那(竜西) 横山									集落跡				
52	おぐし沢	オグシガワ	〃									集落跡	○	○		26
53	丸山清水 I	マルヤマシミズ	伊那(竜西) 平沢									集落跡	○	○		31
54	穴沢	アナザワ	〃									集落跡				
55	天狗上	テングウエ	伊那(竜西) 西町									集落跡				
56	天狗下	テングシタ	〃									集落跡				
57	小沢原	オサワバラ	伊那(竜西) 小沢									集落跡	○	○		52
58	ますみヶ丘上	マスマカオカウエ	伊那(竜西) ますみヶ丘									集落跡				
59	船窪	フナクボ	〃									集落跡	○	○		48
60	鼠平 I	ネズミダイライチ	伊那(竜西) 西町									散布地				
61	鼠平 II	ネズミダイライニ	〃									散布地				
62	上手原	ウデハラ	〃									集落跡				
63	城畑	ジョウハタ	〃									集落跡	○	○		48
64	城楽	ジョウラク	〃									集落跡	○	○		83,86,1004
65	ますみヶ丘	マスマカオカ	伊那(竜西) ますみヶ丘									散布地	○	○		1004
66	赤坂	アカサカ	伊那(竜西) 西町									散布地	○	○		70,208,1004
67	富士塚	フジツカ	伊那(竜西) 荒井									塚	○	○		80
68	上ノ山	ウエノヤマ	伊那(竜西) 西町									集落跡	○	○		67,72
69	伊勢並	イセナラビ	〃									集落跡	○	○		66,68,70
70	狐塚北古墳	キツネツカキコフン	〃									古墳		○		
71	狐塚南古墳	キツネツカミナミコフン	〃									古墳	○		○	
72	山の神	ヤマノカミ	〃									散布地	○	○		14,76
73	小黒南原	オグロナミハラ	〃									散布地	○	○		66,74
74	ウグイス原団地	ウグイスハラダンチ	〃									散布地				
75	山本田代	ヤマモトタシロ	西春近 山本									集落跡	○	○		1004
76	城平上	ジョウヒラウエ	〃									散布地	○	○		1003
77	城平	ジョウヒラ	西春近 城									集落跡	○	○		48,1003
78	宮林	ミヤバヤシ	〃									散布地	○	○		48
79	山の根	ヤマノネ	〃									集落跡	○	○		48,1003
80	八人塚古墳	ハチニンヅカコフン	伊那(竜西) 西町									古墳	○	2号消滅		
81	北条	キタジョウ	西春近 山本									集落跡	○	○		10,12
82	山本	ヤマモト	〃									集落跡				
83	常輪寺下	ジョウリンジシタ	〃									集落跡	○	○		10,12
84	上村	カムラ	西春近 上村									集落跡				
85	上島下	カシミヤシタ	西春近 上島									集落跡				
86	上島	カシマ	〃									集落跡	○	○		9
87	東方B	ヒガシキタエー	西春近 東方									集落跡				
88	東方A	ヒガシキタエー	〃									集落跡	○	○		12
89	村岡北	ムラオカキタ	西春近 村岡									集落跡	○	○		12,207
90	大境	オオサカイ	西春近 小出宮の原									集落跡	○	○		51,1003

遺跡番号	遺跡名	フリガナ	所在地	主な時代							種別	発掘歴	消滅(一部)	消滅(全部)	報告書整理番号		
				旧	縄	弥	古	奈	平	中						近	
91	百駄刈	ヒヤクダガリ	〃		■					■			集落跡	○	○		1003
92	中原	ナカハラ	西春近 小出		■	■							集落跡	○	○		51
93	細ヶ谷A	ホソガヤエー	西春近 小出宮の原		■								散布地	○	○		44
94	西垣外	ニシガイ	西春近 細ヶ谷		■								散布地				
95	細ヶ谷B	ホソガヤビー	〃		■								集落跡	○	○		51,1003
96	山寺垣外	ヤマテラガイ	西春近 白沢		■						■		集落跡	○	○		1003
97	白沢原	シラサワハラ	〃		■					■	■		集落跡	○	○		1003
98	名廻	ナメクリ	〃		■					■			集落跡	○	○		54,1003
99	名廻西古墳	ナメクリニシコフン	〃				■						古墳				
100	名廻東古墳	ナメクリヒガシコフン	〃				■						古墳	○		記録保存	199,1003
101	名廻南	ナメクリミナミ	〃		■					■			集落跡	○	○		91,1003
102	鎮護塚東古墳	チンゴツヒガシコフン	〃				■						古墳	○	○		
103	鎮護塚西古墳	チンゴツニシコフン	〃				■						古墳	○	○		
104	宮の原	ミヤノハラ	西春近 宮の原		■								集落跡	○	○		
105	小出城	コイデシヨウ	西春近 城		■						■		集落跡	○	○		13
106	村岡南	ムラオカミナミ	西春近 村岡		■						■		集落跡	○	○		12,204
107	浜射場	ハマイバ	西春近 宮の原		■				■	■	■		集落跡	○	○		13,17
108	中村	ナカムラ	西春近 中村・下島		■	■				■			集落跡	○	○		33
109	中村東	ナカムラヒガシ	〃							■			集落跡				
110	薬師堂	ヤクシドウ	西春近 下島		■	■				■	■		集落跡		○		
111	カンバ垣外	カンバガイ	西春近 南小出		■					■	■		集落跡	○	○		39
112	丸山	マルヤマ	〃		■						■		集落跡	○	○		40
113	南原	ミナミハラ	〃		■								集落跡	○			11,44
114	唐木原	トウキハラ	西春近 唐木		■								集落跡	○	○		
115	唐木古墳	トウキコフン	〃				■						古墳				
116	児塚	コヅカ	西春近 白沢		■					■			集落跡	○	○		28,38,1003
117	北丘B	キタオカビ	東春近 木裏原北丘		■								集落跡	○	○		54,1003
118	北丘A	キタオカエ	〃		■								集落跡				
119	南丘B	ミナミオカビ	西春近 南丘		■					■			集落跡	○	○		1003
120	南丘A	ミナミオカエ	〃		■					■			集落跡	○	○		1003
121	北丘C	キタオカシ	東春近 木裏原		■								集落跡	○			202
122	南丘C	ミナミオカシ	西春近 南丘		■								集落跡	○	○		45,210
123	眼子田原	マナゴダハラ	西春近 沢渡		■					■	■		集落跡	○	○		22,23
124	山の神	ヤマノカミ	〃		■					■	■		集落跡				
125	上の塚	ウエツツカ	〃								■		塚				
126	沢渡南原	サワトミナミハラ	〃		■								散布地				
127	下小出平	シモコイデダイ	西春近 下小出		■					■			集落跡				
128	天伯	テンバク	西春近 柳沢		■								集落跡				
129	下小出原	シモコイデハラ	〃		■								集落跡				
130	天伯原	テンバクハラ	西春近 下小出		■								集落跡				
131	東田	ヒガシダ	西春近 柳沢		■					■	■		集落跡	○	○		37
132	南原	ミナミハラ	〃		■								集落跡				
133	井の久保	イノクボ	西春近 表木		■					■	■		集落跡	○	○		46
134	表木原	オモキハラ	〃		■					■			集落跡	○	○		46
135	山の下	ヤマノシタ	西春近 諏訪形		■	■				■			集落跡	○	○		43,54

遺跡番号	遺跡名	フリガナ	所在地	主な時代							種別	発掘歴	消滅(一部)	消滅(全部)	報告書整理番号	
				旧	縄	弥	古	奈	平	中						近
136	高遠道	タトオミチ	西春近 表木		■					■		■	○	○		46
137	西春近南小学校	ニシハルチカミナシヨウガッコウ	〃							■						
138	鳥井田	トリイダ	西春近 諏訪形		■	■				■			○	○		49
139	菖蒲沢	ショウブザワ	〃	■	■					■	■		○	○		17,43,1003
140	富士塚古墳	フジツカコフン	〃				■						○		記録保存	1003
141	富士山下	フジヤマシタ	〃		■	■				■			○	○		1003
142	広垣外Ⅰ	ヒロカケイ	〃		■					■						
143	広垣外Ⅱ	ヒロカケイニ	〃							■						
144	宮入口	ミヤイリグチ	〃		■					■			○			208
145	和手	ワテ	西春近 荒井			■				■		■	○	○		1003
146	上手南	ウデミナミ	〃			■				■						
147	城の腰	シヨウコシ	〃		■	■				■		■	○	○		49
148	安岡城跡	ヤスカガシヨウセキ	〃		■	■				■		■	○	○		49
149	横吹	ヨコフキ	〃		■	■				■			○	○		49
150	寺村	テラムラ	西春近 表木		■					■						204
151	下牧経塚	シモマキキョウツカ	西春近 下牧							■			○	○		
152	下牧	シモマキ	〃		■											
153	南原	ミナハラ	伊那(竜東) 福島		■					■			○	○		
154	原	ハラ	〃		■								○	○		88
155	大上平	オウエダイ	〃		■					■						
156	池火平	イケヒダイ	〃		■	■				■						
157	福島古墳群	フジマコフンクン	〃				■							5号消滅		
158	北原	キタハラ	〃		■											
159	中原	ナカハラ	〃		■	■				■			○	○		88
160	島崎	シマザキ	下手良 ハツ手		■	■							○	○		55,64
161	堤林	ツツミバヤシ	〃		■						■	■	○	○		55
162	山の田	ヤマノタ	〃							■			○	○		61
163	辻西幅	ツジニシハバ	〃							■			○	○		71,75,90
164	垣外	カケ	〃		■											
165	角城	カクシヨウ	〃							■						
166	南垣外	ミナカケ	〃							■						
167	松太郎窪	マツタロウクボ	〃		■					■			○	○		82
168	下手良中原	シモテラナカハラ	〃		■								○	○		82,208,210
169	大原	オオハラ	〃		■					■			○	○		82,87
170	小萩原	コハキハラ	手良 中坪		■					■						
171	地神原	チジノハラ	〃		■								○			202
172	二重平	ニジュウダイ	〃		■					■						
173	古八幡	コハチマン	手良 野口		■	■										
174	鍛冶垣外	カシヤケ	〃		■	■				■		■	○	○		63
175	下寺中原	シモテラナカハラ	〃		■	■				■						
176	石見堂	イシミドウ	〃		■	■										
177	堂垣外	ドウカケ	〃		■	■				■		■	○	○		58
178	野口	ノグチ	〃		■								○	○		
179	野口畑	ノグチハタ	〃		■											
180	矢塚古墳	ヤヅカコフン	〃				■						○	○		

遺跡番号	遺跡名	フリガナ	所在地	主な時代							種別	発掘歴	消滅 (一部)	消滅 (全部)	報告書 整理番号
				旧	縄	弥	古	奈	平	中					
181	大上	オウエ	"		■										
182	鳥の宮	トリノミヤ	"		■										
183	沢山	サワヤマ	"		■										
184	ヨキトギ	ヨキトギ	手良 野口		■	■									
185	蟹沢桜林	カニサワサクラハヤシ	"		■							○	○		57
186	ワランベ	ワランベ	"						■			○	○		57
187	入林	イハヤシ	"		■							○	○		57
188	狐垣外	キツネガイト	"		■					■					
189	辻垣外	ツジガイト	"		■					■					
190	竜の沢	リュウノサワ	手良 中坪		■							○			59
191	大百済毛小百済毛	オクダラケコウダラケ	"		■										
192	鳴神	ナルガミ	手良 野口		■							○	○		59
193	浜弓場	ハマイハ	手良 中坪		■					■	■	○	○		6
194	近洞	チカホラ	手良 野口							■					
195	金山	カナヤマ	"		■					■					
196	山伏塚古墳	ヤマフシヅカコフン	"					■				○		○	59
197	向田	ムコウダ	"		■	■						○		○	59
198	丸山	マルヤマ	"		■						■	○	○		
199	上村	カムラ	手良 中坪			■					■	○	○		41,211
200	砂場	スナハ	"		■	■	■	■	■			○	○		29,30
201	清水洞	シミズホラ	"		■	■									
202	宮の平	ミヤノタイラ	"		■	■						○			200,206
203	六道原	ロウドウハラ	"		■										
204	柿ノ木	カキノキ	"		■	■									
205	郷の坪	ゴウノツボ	"		■	■									
206	神手原	カミテハラ	美篁 笠原		■										
207	日向畑	ヒナダハタ	"		■										
208	笠原堂垣外	カサハラドウガイト	"			■	■					○	○		
209	堤下	ツツミシタ	"			■									
210	七日市場	ナカイチバ	"			■	■								
211	古屋敷	フルヤシキ	"		■										
212	林越	ハヤシゴシ	"		■	■									
213	コウジラ畑	コウジラハタ	美篁 芦沢		■										
214	東畑	ヒガシハタ	"		■										
215	東垣外	ヒガシガイト	"		■							○			210
216	サンガ垣外	サンガガイト	"		■										
217	天神山古墳	テンジンヤマコフン	美篁 笠原				■					○	○		
218	菅窪	スガクボ	美篁 南割			■									
219	沢の田	サワノタ	"		■										
220	菅窪	スガクボ	美篁 笠原		■										
221	富士塚	フジヅカ	"			■	■			■		○	○		
222	上の段	ウエノダン	美篁 上大島		■										
223	末広六道原 ※296と同	スエヒロロウドハラ	美篁 末広		■	■						○	○		35
224	中県	ナカガタ	美篁 中県		■										
225	中県羽場	ナカガタハバ	"		■										

遺跡番号	遺跡名	フリガナ	所在地	主な時代							種別	発掘歴	消滅(一部)	消滅(全部)	報告書整理番号	
				旧	縄	弥	古	奈	平	中						近
226	下県羽場	シモガタハ	美篤 下県		■							集落跡				
227	上川手羽場	カミカテハ	美篤 上川手		■	■						集落跡				
228	大久保(荒神)	オオクボ(アラガミ)	伊那(竜東) 野底						■			集落跡				
229	野底古墳群	ノソコフン	伊那(竜東) 野底				■					古墳				
230	上牧古墳群	カミマキフン	伊那(竜東) 上牧				■					古墳				
231	長者屋敷	チョウシヤシキ	"		■	■			■			集落跡				
232	芝垣外	シバガイ	"			■	■	■	■			集落跡	○	○		
233	上の原	ウエハラ	伊那(竜東) 日影		■	■			■			集落跡				
234	大原	オオハラ	伊那(竜東) 中央		■							集落跡				
235	大宮原	オオミヤハラ	伊那(竜東) 日影		■							集落跡				
236	伊那東部中	イナトウブチュウ	"		■							集落跡				
237	古町古墳群	フルマチフン	伊那(竜東) 中央				■					古墳				
238	上垣外	カミガイ	"			■			■			集落跡				
239	爪ヶ崎	ツメガサキ	"		■				■	■		集落跡				
240	上原	ウエハラ	東春近 車屋		■				■	■		集落跡	○	○		20
241	中原	ナカハラ	東春近 車屋共栄		■							集落跡	○			210
242	下原	シタハラ	"		■				■			集落跡	○	○		65
243	老松場古墳群	ロウショウバフン	東春近 中殿島				■					古墳	○			
244	宮場間様古墳群	ミヤバマサマフン	"				■					古墳	○	○		53.62
245	本城古墳群	ホンジョウフン	"				■					古墳				
246	火沢古墳群	ヒサワフン	"				■					古墳				
247	洞古墳群	ホラフン	東春近 下殿島				■					古墳				
248	古寺上古墳群	フルテラウフン	"				■					古墳				
249	城南古墳群	ジョウナンフン	東春近 田原				■					古墳				
250	社宮司古墳	シャグウシフン	"				■					古墳				
251	宮ノ上古墳群	ミヤノウフン	"				■					古墳				
252	男塚古墳	オトツカフン	"				■					古墳				
253	瀬戸古墳群	セトフン	"				■					古墳				
254	八人塚古墳	ハチニンツカフン	富県 南福地		■	■	■			■		集落跡				
255	小御堂	コミドウ	"		■	■			■			集落跡	○	○		20,21
256	阿原古墳群	アラフン	"				■					古墳	○		全基記録保存	5
257	高岱	コウタイ	"		■	■			■			集落跡	○	○		
258	駒合古墳	コマセフン	富県 北福地				■					古墳				
259	駒ヶ原	コマガハラ	富県 南福地		■		■					集落跡				
260	蚕玉古墳	コダマフン	富県 北福地				■					古墳				
261	羽根原	ハネハラ	"				■		■			集落跡	○			201
262	羽根田	ハネダ	"						■			集落跡				
263	御殿場	ゴテンバ	"		■	■			■			集落跡	○	○		1
264	まこもが池	マコモガイケ	富県 貝沼			■						集落跡	○	○		85
265	宮の花	ミヤノハナ	"			■	■		■			集落跡				
266	上垣外	カミガイ	富県 桜井		■							集落跡				
267	大塚古墳	オオツカフン	"				■					古墳				
268	北林	キタハヤシ	富県 北新		■							集落跡				
269	今泉	イマイミ	"		■							集落跡				
270	奈良尾	ナラオ	"		■					■		集落跡	○	○		60

遺跡番号	遺跡名	フリガナ	所在地	主な時代							種別	発掘歴	消滅(一部)	消滅(全部)	報告書整理番号		
				旧	縄	弥	古	奈	平	中						近	
271	舟ヶ洞	フナガホラ	"		■					■	■	■	■	集落跡	○	○	
272	芝王	シホウ	"		■	■			■	■	■	■	■	集落跡	○	○	50
273	中平	ナカタイ	富県 上新山		■									集落跡			
274	宮原	ミヤハラ	"		■						■			集落跡	○	○	60
275	合の原	アイハラ	"		■									集落跡			
276	小松	コマツ	"		■									集落跡			
277	和手	ワテ	"		■									集落跡			
278	丸山清水	マルヤマシミズ	伊那(竜西) 平沢		■						■			集落跡	○	○	
279	宮の原	ミヤノハラ	西春近 宮の原								■	■		集落跡	○	○	32
280	南村	ミナムラ	西春近 柳沢		■						■			集落跡	○	○	37,56
281	尻塚	コツカ	西春近 白沢		■									集落跡	○	○	
282	南小出南原	ミナコイデミナミハラ	西春近 南小出			■					■			集落跡	○	○	
283	根木谷中畑	ネギヤナカハタ	富県 北福地								■	■		集落跡	○	○	20
284	野口	ノグチ	手良 野口		■									集落跡			
285	木裏原	キウラハラ	東春近 木裏原		■									集落跡			
286	根岸	ネギシ	伊那(竜東) 中央			■								集落跡	○	○	0
287	三ツ木	ミツギ	富県 南福地		■									集落跡	○	○	2
288	上平	ウエタイ	伊那(竜東) 福島			■					■			集落跡			
289	池火	イケヒ	"		■	■								集落跡			
290	福島	フクシマ	"								■			集落跡	○		3,69,208
291	弥生ヶ丘	ヤヨイガオカ	伊那(竜西) 西町			■					■			集落跡	○	○	
292	塚畑	ツカハタ	西箕輪 大泉新田		■									集落跡	○	○	15
293	舟窪西	フナボシ	伊那(竜西) ますみヶ丘		■						■			集落跡	○	○	69,73
294	六ツ塚古墳	ムツツカコフン	手良 ハツ手				■							古墳	1,2,4,5,6号 消滅		
295	伊那部宿	イナベシュク	伊那(竜西) 西町									■	■	交通			
296	末広六道原	スエヒロクドウハラ	美篁 上川手		■	■								集落跡	○	○	35
297	下牧古城	シモマキジョウ	西春近 下牧											城館跡			
298	町屋の城	マチヤノジョウ	西春近 諏訪形											城館跡	○	○	
299	表木城	オモテキジョウ	西春近 表木											城館跡		○	
300	物見ヤ城	モノミヤジョウ	西春近 柳沢											狼煙跡			
301	井の久保城	イノクボジョウ	西春近 表木											城館跡		○	
302	恩徳寺城	オントクジジョウ	西春近 下小出											城館跡			
303	沢渡城	サワドジョウ	西春近 沢渡											城館跡			
304	細窪城	ホソボジョウ	西春近 下島											城館跡	○	○	
305	丸山城	マルヤマジョウ	西春近 南小出											城館跡	○	○	
306	薬師堂城	ヤクシドウジョウ	西春近 下島											城館跡		○	
307	内城	ウチジョウ	西春近 南小出											城館跡	○	○	
308	フブキ垣外城	フブキガイジョウ	西春近 下島											城館跡	○	○	
309	荒城	アラジョウ	西春近 村岡											城館跡	○	○	
310	村岡城	ムラオカジョウ	"											城館跡	○	○	
311	田城	テンジョウ	西春近 山本											城館跡			
312	城平の城	ジョウヒラジョウ	"											城館跡	○	○	
313	上島城	カミシマジョウ	西春近 上島											城館跡			
314	小黒城	オグロジョウ	伊那(竜西) 西町											城館跡			
315	春日城	カスガジョウ	伊那(竜西) 西町											城館跡	○	○	111

遺跡番号	遺跡名	フリガナ	所在地	主な時代							種別	発掘歴	消滅(一部)	消滅(全部)	報告書整理番号
				旧	縄	弥	古	奈	平	中					
316	義信の城	ヨシノブノシヨウ	伊那(竜西) 荒井									狼煙跡			
317	鳩吹城	ハトフキシヨウ	伊那(竜西) 横山									城館跡			
318	狐林城	コリスシヨウ	伊那(竜西) 山寺									城館跡			
319	御園古城	ミソノシヨウ	伊那(竜西) 山寺									城館跡		○	
320	小沢古城	オサワコシヨウ	伊那(竜西) 下小沢									城館跡	○	○	
321	中条城	ナカシヨウシヨウ	西箕輪 中条									城館跡	○	○	
322	殿屋敷	トヤシキ	西箕輪 上戸									城館跡		○	
323	黒ん城	クロシヨウ	西箕輪 羽広									狼煙跡			
324	古町古城	フルマチコシヨウ	伊那(竜東) 中央									城館跡			
325	城林の城	シヨウハヤシノシヨウ	伊那(竜東) 上牧									城館跡			
326	乾の城	イヌイシヨウ	伊那(竜東) 野底									城館跡			
327	野口館城	ノグチヤカガシヨウ	手良 野口									城館跡			
328	城山	シヨウヤマ	手良 中坪									城館跡	○	○	
329	野口城	ノグチシヨウ	手良 野口									城館跡			
330	丸山館城	マルヤマカガシヨウ	手良 中坪									城館跡	○	○	
331	六ツ塚城	ムツツカシヨウ	伊那(竜東) 福島									城館跡			
332	登内の城	トノウチノシヨウ	手良 ハツ手									城館跡			
333	内城	ウチシヨウ	手良 下手良									城館跡			
334	浅間社城	センゲンシヤシヨウ	〃									狼煙跡			
335	畑氏館	ハタシヤカタ	美筈 笠原									城館跡			
336	洞口城	ホラグチシヨウ	美筈 上川手									城館跡		○	
337	馬場の古城	ハンバノシヨウ	美筈 笠原									城館跡		○	
338	守屋山城	モリヤサンシヨウ	〃									砦跡			
339	天神山城	テンジンヤマシヨウ	〃									砦跡			
340	蟻塚城	アリツカシヨウ	〃									城館跡	○		202,210
341	春日城	カスガシヨウ	美筈 上大島									城館跡		○	
342	古城	コシヨウ	富県 上新山									城館跡			
343	北城	キタシヨウ	〃									城館跡		○	
344	一夜城	イチヤシヨウ	富県 桜井									城館跡	○	○	210
345	黒河内城	クロコウチシヨウ	〃									城館跡			
346	叶尾城	カナオシヨウ	〃									城館跡			
347	池田城	イケダシヨウ	〃									城館跡			
348	古城	コシヨウ	富県 貝沼									城館跡			
349	荒城	アラシヨウ	〃									城館跡			
350	埋橋の城	ウスハンシヨウ	〃									城館跡		○	
351	中島城	ナカシマシヨウ	〃									城館跡			
352	上の城	ウエノシヨウ	〃									城館跡		○	
353	羽場城	ハバシヨウ	富県 北福地									城館跡		○	
354	内城	ウチシヨウ	〃									城館跡			
355	竹松城	タケマツシヨウ	富県 南福地									城館跡			
356	橋場城	ハシバシヨウ	〃									城館跡		○	
357	牛ヶ城	ウシガシヨウ	〃									狼煙跡			
358	物見ヤ城	モノミヤシヨウ	富県 貝沼									狼煙跡			
359	保谷沢の城	ホヤサワノシヨウ	東春近 田原									城館跡	○		204
360	殿島城	トシマシヨウ	東春近 中殿島									城館跡	○	○	62

遺跡番号	遺跡名	フリガナ	所在地	主な時代							種別	発掘歴	消滅 (一部)	消滅 (全部)	報告書 整理番号	
				旧	縄	弥	古	奈	平	中						近
361	お寺の山	オテラヤマ	東春近 中組									城館跡	○	○		
362	富岡	トモガ	美築 笠原									集落跡 城館跡	○	○		79
363	赤井沢	アカイザ	高遠町 藤沢 片倉									散布地				
364	立石	タテイシ	高遠町 藤沢 片倉									散布地				
365	古屋敷	フルヤシキ	高遠町 藤沢 片倉									散布地		○		
366	臼沢口	ウスザウグチ	高遠町 藤沢 片倉									散布地				
367	下の間(下沼)	シモヌマ	高遠町 藤沢 片倉									散布地				
368	白藤	シロフジ	高遠町 藤沢 松倉									散布地				
369	御堂垣外宮前	ミタガハミヤマエ	高遠町 藤沢 御堂垣外									散布地				
370	宮下	ミヤシタ	高遠町 藤沢 荒町									散布地				
371	神明上	シメイカミ	高遠町 藤沢 北原									散布地				
372	権殿屋敷跡	ゴンドノヤシキア	〃									散布地				
373	和手垣外	ワテガハ	高遠町 藤沢 台									散布地				
374	坊垣外	ホウケハ	高遠町 藤沢 北原									散布地				
375	八幡屋敷跡	ハチマンヤシキア	高遠町 長藤 中条									散布地	○			101
376	宮の原	ミヤノハラ	高遠町 長藤 塩供・中条									集落跡 散布地	○	○		94
377	峠	トウゲ	高遠町 長藤 板山									散布地				
378	釈迦堂	シャクドウ	〃									散布地	○	○		93
379	西沢垣外	ニシザウガハ	高遠町 長藤 弥勒									散布地				
380	上手垣外	ウデガハ	〃									散布地				
381	久保	クボ	高遠町 山室 久保									散布地				
382	原	ハラ	高遠町 山室 原									散布地	○	○		102
383	川辺	カワベ	高遠町 山室 川辺									散布地				
384	桂泉寺(畑)	ケイセンジ	高遠町 東高遠 三番									散布地				
385	花畑	ハナハタ	高遠町 東高遠 花畑									散布地				
386	高遠城跡	タカトシヨウセキ	高遠町 東高遠									散布地 城館跡	○			95
387	原勝間	ハラガツマ	高遠町 勝間 原勝間									散布地 集落跡	○	○		97
388	西勝間	ニシガツマ	高遠町 勝間									散布地	○	○		
389	堀	ホリ	高遠町 勝間									散布地 集落跡	○	○		96,103,202
390	後沢	ウシロザウ	高遠町 小原 後沢									散布地	○	○		99
391	古城	コシヨウ	高遠町 下山田									散布地				
392	上垣外	ウデガハ	〃									散布地		○		
393	北垣外	キタガハ	〃									散布地		○		
394	竹垣外	タケガハ	〃									散布地		○		
395	八幡原	ハチマンハラ	〃									散布地		○		
396	金井原	カナイハラ	〃									散布地	○	○		98
397	越道	コエミチ	高遠町 上山田 越道									散布地	○			210
398	下の原	シモハラ	高遠町 上山田 金井原									散布地	○	○		
399	姥ヶ入	ウバガハ	高遠町 上山田 引持									散布地		○		
400	宮原	ミヤハラ	高遠町 長藤 中条 (所在地不明)									散布地				
401	三角平	サンカクダ	高遠町 藤沢 松倉 (所在地不明)									散布地				
402	荒神沢	アラカミザウ	長谷 非持									散布地				
403	狐塚	キツネツカ	〃									散布地				
404	一本木	イツポンキ	〃									集落跡	○			110
405	中原	ナカハラ	〃									散布地				

4 埋蔵文化財発掘調査報告書一覧

報告書名	発行者	発行年月
根岸遺跡(中央)	伊那市教育委員会	S41.2
伊那路第十一巻一号別冊 御殿場遺跡(富県北福地)概報	伊那市教育委員会	S42.1
釋迦堂遺跡(高遠町長藤)	高遠町教育委員会	S42.2
三ツ木遺跡(富県南福地)概報	伊那市教育委員会	S42.3
福島遺跡(福島)略報	国土館大学考古学研究室	S42.8
福島遺跡(福島)概報	伊那市教育委員会、国土館大学考古学研究室	S42.12
福島遺跡(福島)	伊那市教育委員会	S43.12
月見松遺跡(小沢)	伊那市教育委員会	S44.3
名廻東(児塚)古墳(西春近白沢)概報	伊那市教育委員会	S45.3
阿原古墳(富県南福地)	伊那市教育委員会	S47.3
浜弓場遺跡(手良中坪)	伊那市教育委員会	S48.3
大萱遺跡(西箕輪)	伊那市教育委員会、南信土地改良事務所	S48.3
上島遺跡(西春近上島)	伊那市教育委員会	S49.3
北條遺跡(西春近山本)・常輪寺下遺跡(西春近山本・城)	伊那市教育委員会、南信土地改良事務所	S49.3
東方A遺跡(西春近東方)・村岡北遺跡(西春近村岡)・ 村岡南遺跡(西春近村岡)・常輪寺下遺跡(西春近山本・城)・ 北条遺跡(西春近山本)	伊那市教育委員会、南信土地改良事務所	S50.3
小出城(城南)遺跡(西春近城)・浜射場遺跡(西春近宮の原)	伊那市教育委員会、南信土地改良事務所	S50.3
山の神遺跡(小黑原)	伊那市教育委員会、伊那市水道局	S50.8
伊那路50年9月号(通刊224号)抜刷 月見松遺跡(下小沢)	伊那市教育委員会	S50.9
塚畑遺跡(西箕輪大泉新田)	伊那市教育委員会、関東農政局伊那西部、 農業水利事業所	S51.3
中の原遺跡(西箕輪中条)・古屋敷遺跡(西箕輪羽広)	伊那市教育委員会、南信土地改良事務所	S51.3
伊那路52年1月号(通刊240号)抜刷 今泉遺跡(御園)	伊那市教育委員会	S52.1
浜射場遺跡(西春近宮の原)・菖蒲沢遺跡(西春近諏訪形)	伊那市教育委員会、伊那市農業協同組合	S52.3
月見松遺跡(小沢)第Ⅲ次概報	伊那市教育委員会	S52.3
小御堂遺跡(富県南福地)・根木谷中畑遺跡(富県北福地)・ 上原遺跡(東春近共栄)	伊那市教育委員会、南信土地改良事務所	S52.3
小御堂遺跡(富県南福地)	伊那市教育委員会、南信土地改良事務所	S52.3
眼子田原遺跡(西春近沢渡)	伊那市教育委員会、南信土地改良事務所	S52.3
眼子田原B遺跡(西春近沢渡)	伊那市教育委員会、南信土地改良事務所	S52.3
与地原遺跡(西箕輪与地)・北割遺跡(西箕輪羽広)	伊那市教育委員会、南信土地改良事務所	S52.3
与地原B遺跡(西箕輪与地)	伊那市教育委員会、南信土地改良事務所	S52.3

報告書名	発行者	発行年月
財木遺跡（西箕輪羽広）・金鑄場遺跡（西箕輪羽広）	伊那市教育委員会、 関東農政局伊那西部農業水利事務所	S52.3
財木遺跡（西箕輪羽広）	伊那市教育委員会	S52.3
宮の原遺跡（高遠町長藤）	高遠町教育委員会	S52.12
おぐし沢遺跡（横山）	伊那市教育委員会、南信土地改良事務所	S53.3
児塚遺跡（西春近白沢）概報	伊那市教育委員会	S53.3
砂場遺跡（手良中坪）	伊那市教育委員会、 長野県土地改良事業団体連合会	S53.3
砂場B遺跡（手良中坪）	伊那市教育委員会	S53.3
丸山清水遺跡（平沢）	伊那市教育委員会、南信土地改良事務所	S53.3
丸山清水B遺跡（平沢）	伊那市教育委員会	S53.3
宮の原遺跡（西春近宮の原）	伊那市教育委員会、南信土地改良事務所	S53.3
宮の原B遺跡（西春近宮の原）	伊那市教育委員会	S53.3
中村遺跡（西春近中村・下島）	伊那市教育委員会、南信土地改良事務所	S53.3
末広六道原遺跡（美篤下川手・末広）分布調査概報	末広六道原遺跡調査団、長野県企業局	S53.3
南原遺跡（西春近南小出）	伊那市教育委員会、タカノ株式会社	S53.7
八人塚遺跡（平沢）	伊那市教育委員会、南信土地改良事務所	S54.3
末広六道原遺跡（美篤下川手・末広）概報	伊那市教育委員会、長野県企業局	S54.3
金鑄場遺跡（西箕輪羽広）	伊那市教育委員会	S54.3
南村遺跡（西春近柳沢）・東田遺跡（西春近柳沢）	伊那市教育委員会、南信土地改良事務所	S54.3
児塚遺跡（西春近白沢）	伊那市教育委員会、南信土地改良事務所	S54.3
カンバ垣外遺跡（西春近南小出）	伊那市教育委員会、南信土地改良事務所	S54.3
上村遺跡（手良中坪）概報	伊那市教育委員会	S54
丸山城跡（西春近南小出）	伊那市教育委員会	S55.3
宮垣外遺跡（西箕輪中条）・天庄Ⅱ遺跡（西箕輪中条）・ 堀の内遺跡（西箕輪中条）・小花岡遺跡（西箕輪中条）	伊那市教育委員会、 関東農政局伊那西部農業水利事務所	S55.3
堀の内遺跡（西箕輪中条）	伊那市教育委員会	S55.3
菖蒲沢遺跡（西春近諏訪形）・山の下遺跡（西春近諏訪形）	伊那市教育委員会	S55.3
南原遺跡（西春近南小出）・細ヶ谷A遺跡（西春近細ヶ谷）	伊那市教育委員会、南信土地改良事務所	S55.3
南丘C遺跡（西春近沢渡）	伊那市教育委員会、伊那市建設部土木課	S55.12
高遠道遺跡（西春近諏訪形）・井の久保遺跡（西春近井の久保） ・表木原遺跡（西春近表木）	伊那市教育委員会、南信土地改良事務所	S56.3
井の久保遺跡（西春近井の久保）	伊那市教育委員会	S56.3
桜畑遺跡（西箕輪吹上）	伊那市教育委員会、 関東農政局伊那西部農業水利事務所	S56.3
堀遺跡（高遠町勝間）	高遠町教育委員会	S57.3

報告書名	発行者	発行年月
船窪遺跡(ますみヶ丘)・城畑遺跡(西町)・城平遺跡(西春近山本)・宮林遺跡(西春近山本)・山の根遺跡(西春近山本)	伊那市教育委員会、 関東農政局伊那西部農業水利事務所	S58.3
鳥井田遺跡(西春近諏訪形)・横吹遺跡(西春近諏訪形)・城の腰遺跡(西春近諏訪形)・安岡城遺跡(西春近諏訪形)	伊那市教育委員会、南信土地改良事務所	S58.3
芝王遺跡(富県新山)	伊那市教育委員会、南信土地改良事務所	S59.3
大境遺跡(西春近宮の原)・中原遺跡(西春近宮の原)・細ヶ谷遺跡(西春近細ヶ谷)	伊那市教育委員会、 関東農政局伊那西部農業水利事務所	S59.3
小沢原遺跡(小沢)	伊那市教育委員会、南信土地改良事務所	S60.2
宮場間様1号墳(東春近中殿島)	伊那市教育委員会、伊那建設事務所	S60.2
名廻遺跡(西春近白沢)・北丘B遺跡(東春近木裏原)・柳沢遺跡(西春近柳沢)・山の下遺跡(西春近井の久保)	伊那市教育委員会、 関東農政局伊那西部農業水利事務所	S60.2
堤林遺跡(手良八ツ手)・島崎遺跡(手良八ツ手)	伊那市教育委員会・南信土地改良事務所	S61.3
南村遺跡(西春近柳沢)	伊那市教育委員会、 関東農政局伊那西部農業水利事務所	S61.3
蟹澤桜林遺跡(手良蟹沢)・入林遺跡(手良蟹沢)・ワランベ遺跡(手良蟹沢)	伊那市教育委員会、伊那市手良土地改良事務所	S61.3
堂垣外遺跡(手良野口)	伊那市教育委員会、上伊那地方事務所	S62.3
山伏塚古墳遺跡(手良野口)・向田遺跡(手良野口)・鳴神遺跡(手良野口)・竜の沢遺跡(手良野口)	伊那市教育委員会、上伊那地方事務所	S62.3
高遠城跡二ノ丸門(高遠町東高遠)	高遠町教育委員会	S62.8
殿島城跡遺跡(東春近中組)・宮場間様十三塚遺跡(東春近中組)	殿島城跡遺跡発掘調査団、 長野県住宅供給公社、伊那市教育委員会	S62.12
奈良尾遺跡(富県北新)・宮の原遺跡(富県上新山)	伊那市教育委員会、上伊那地方事務所	S63.3
山の田遺跡(手良八ツ手)	伊那市教育委員会、上伊那地方事務所	S63.3
鍛冶垣外遺跡(手良)	上伊那地方事務所、伊那市教育委員会	H1.3
島崎遺跡(手良沢岡)	上伊那地方事務所、伊那市教育委員会	H2.3
原勝間遺跡(高遠町勝間)	高遠町教育委員会	H2.3
下原遺跡(東春近中組)	伊那市土地開発公社、伊那市教育委員会	H3.3
小黑南原遺跡(西町)・伊勢並遺跡(西町)	上伊那地方事務所、伊那市教育委員会	H4.3
史跡高遠城跡二ノ丸Ⅱ(高遠町東高遠)	高遠町教育委員会	H4.3
上ノ山遺跡(西町)	長野県伊那弥生ヶ丘高等学校、 伊那市教育委員会	H5.3
伊勢並遺跡(西町)	上伊那地方事務所、伊那市教育委員会	H5.3
金井原遺跡(高遠町上山田)	高遠町教育委員会	H5.3
伊勢並遺跡(西町)(第4次)概報	伊那市教育委員会	H5.11
舟窪西遺跡(ますみヶ丘)・福島地籍	伊那市教育委員会	H6.3

報告書名	発行者	発行年月
伊勢並遺跡（西町）・赤坂遺跡（西町）	上伊那地方事務所、伊那市教育委員会	H7.3
辻西幅遺跡（手良沢岡）	伊那建設事務所、伊那市教育委員会	H7.3
上ノ山遺跡（西町）	長野県伊那弥生ヶ丘高等学校、 伊那市教育委員会	H7.3
舟窪西遺跡（ますみヶ丘）	上伊那地方事務所、伊那市教育委員会	H8.3
史跡高遠城跡二ノ丸Ⅲ（高遠町東高遠）	高遠町教育委員会	H8.3
後沢遺跡Ⅱ（高遠町小原）	高遠町教育委員会	H8.3
高遠城番小屋遺跡（高遠町東高遠） 武家屋敷遺跡（高遠町東高遠）	高遠町教育委員会、伊那建設事務所	H8.3
小黑南原遺跡（西町）	上伊那地方事務所、伊那市教育委員会	H9.3
辻西幅遺跡（手良沢岡）第Ⅱ次	伊那建設事務所、伊那市教育委員会	H9.3
山の神遺跡（西町）	伊那市経済部耕地林務課、伊那市教育委員会	H10.3
金鑄場遺跡（西箕輪羽広）（第Ⅰ次～第Ⅳ次調査）	伊那市教育委員会、伊那市総務部企画課、 伊那市経済部農政課	H10.3
八幡屋敷遺跡（高遠町長藤）	高遠町教育委員会	H10.3
金鑄場遺跡（西箕輪羽広）（第Ⅴ次～第Ⅵ次調査）	伊那市教育委員会、伊那市総務部企画課、 伊那市経済部農政課	H11.3
富岡遺跡（美篤笠原）第Ⅰ次（平成9年度）、 第Ⅱ次（平成10年度）	伊那市教育委員会	H11.3
原遺跡（高遠町山室）	高遠町教育委員会、上伊那地方事務所、 伊那建設事務所	H11.3
石塚遺跡（御園・山寺）	伊那市教育委員会、伊那中央行政組合病院建設 課、伊那地土地開発公社	H12.1
富士塚遺跡（荒井）	伊那市教育委員会、伊那市経済部耕地林務課	H12.2
泉原遺跡（長谷黒河内）	上伊那地方事務所、長谷村教育委員会	H12.3
南郷遺跡（長谷溝口）	上伊那地方事務所、長谷村教育委員会	H12.3
石仏遺跡（長谷溝口）	上伊那地方事務所、長谷村教育委員会	H12.3
城楽遺跡（荒井）	伊那市教育委員会、伊那市建設部建設課	H13.2
下手良中原（手良沢岡）・大原（手良沢岡）・ 松太郎窪遺跡（手良沢岡）	上伊那地方事務所、伊那市教育委員会	H13.3
南原遺跡（長谷非持）	上伊那地方事務所、長谷村教育委員会	H13.3
下ノ中原遺跡（長谷非持）・一本木遺跡（長谷非持）	上伊那地方事務所、長谷村教育委員会	H13.3
石塚遺跡（山寺）	伊那市教育委員会、伊那市建設部建設課	H14.3
まこもが池遺跡（富県貝沼）	伊那市教育委員会、伊那市土地開発公社	H14.3
城楽遺跡（小沢）	伊那市教育委員会、伊那市建設部建設課	H14.3
史跡高遠城跡大手門石垣（高遠町東高遠）	高遠町教育委員会	H14.3

報告書名	発行者	発行年月
堀遺跡Ⅱ（高遠町勝間）	社会福祉法人高遠さくら福祉会、 高遠町教育委員会	H14.3
中非持三遺跡（長谷非持）	上伊那地方事務所、長谷村教育委員会	H14.3
高尾遺跡（山寺）	伊那市教育委員会、伊那市建設部建設課	H15.2
大原遺跡（上の原）	伊那市教育委員会、伊那市土地開発公社、 伊那市福祉事務所	H15.3
中原遺跡（手良沢岡）・原遺跡（手良沢岡）	上伊那地方事務所、伊那市教育委員会	H15.3
辻西幅遺跡（手良沢岡）第Ⅲ次	伊那市教育委員会、伊那市水道部下水道課	H16.1
名廻南遺跡（西春近白沢）	伊那建設事務所、伊那市教育委員会	H16.1
今泉遺跡（山寺）	伊那市教育委員会、伊那市建設部建設課	H16.3
史跡高遠城跡二ノ丸・三ノ丸ほか（高遠町東高遠）	高遠町教育委員会	H16.3
史跡高遠城跡二ノ丸・南曲輪（高遠町東高遠）	高遠町教育委員会	H18.3
若宮武家屋敷遺跡（高遠町東高遠） 長野県埋蔵文化財センター発掘調査報告書 83	伊那建設事務所、伊那市教育委員会、 長野県埋蔵文化財センター	H20.3
宮の平遺跡（手良中坪）概報	伊那市教育委員会	H21
羽根原遺跡（富県北福地） 伊那市埋蔵文化財報告 第1集	伊那市建設部建設課、伊那市教育委員会	H22.3
市内遺跡 伊那市埋蔵文化財報告 第2集	伊那市教育委員会	H22.3
西箕輪小学校北遺跡（西箕輪大萱）第1次・ 第2次伊那市埋蔵文化財報告 第3集	伊那市教育委員会	H23.3
市内遺跡 伊那市埋蔵文化財報告 第4集	伊那市教育委員会	H23.3
伊那養護学校北遺跡（西箕輪大萱） 伊那市埋蔵文化財報告 第5集	伊那市教育委員会	H23.3
宮の平遺跡（手良中坪）第1次～第3次 伊那市埋蔵文化財報告 第6集	伊那市教育委員会	H24.3
市内遺跡 伊那市埋蔵文化財報告 第7集	伊那市教育委員会	H24.3
市内遺跡 伊那市埋蔵文化財報告 第8集	伊那市教育委員会	H25.3
市内遺跡 伊那市埋蔵文化財報告 第9集	伊那市教育委員会	H26.3
市内遺跡 伊那市埋蔵文化財報告 第10集	伊那市教育委員会	H27.3
市内遺跡 伊那市埋蔵文化財報告 第11集	伊那市教育委員会	H29.3

5 古い地名調査報告書一覧

地区		調査グループ	報告書名	発行年
竜東	日影	日影	地名調査報告書 日影地区	H28
	境	境	境の地名 元禄～現在（含む変遷）	H28
	狐島	狐島	狐島の地名	H28
	狐島	狐島	蓮台場整備と八勇士石碑建立事業報告書	H28
	上新田	上新田	上新田の地名	H27
	上牧	上牧	上牧の古い地名 地名から郷土の歴史を学ぶ	H27
	野底	野底	野底地域内に残る 古地名と由来 そして伝承余話	H24
	福島	福島	福島の古い地名 福島地名調査報告書	H27
	全域		伊那竜東歴史・地名ものがたり	H31
竜西	御園	御園	御園の由来	H28
	山寺	山寺	伊那市山寺 地区名・字名・小河川・屋号 調査報告	H28
	荒井	荒井	平成二十七年度荒井区地名調査報告書 荒井区の地名	H27
	西町	西町	伊那市西町区地名調査報告書	H28
	小沢	小沢	小沢の地名 小沢地区地名調査報告書	H27
	平沢	平沢	平沢区の小字名 平沢地区の地形と歴史	H27
	横山	横山	横山の地名・歴史を尋ねて	H28
	全域		伊那竜西歴史・地名ものがたり	H31
富県	上新山	上新山	富県上新山区地名調査報告書	H27
	北新	北新	北新区地名調査報告書	H27
	桜井	桜井	桜井の地名と歴史	H28
	貝沼	貝沼	貝沼 西原 温故知新	H26
	北福地	北福地	北福地の地名 土地の記憶を訪ねて	H27
	南福地	南福地	南福地ものがたり ～平成 26 年度調査～	H26
			富県南福地地名調査中間報告（H26.9）	H26
	全域		富県歴史・地名ものがたり	H31
美篤	芦沢	芦沢	伊那市美篤 芦沢の地名といわれ	H27
	笠原	笠原	笠原地名調査報告書 中間報告会資料	H26
	南割	南割	南割の歴史と地名	H26
	横町	横町	横町区地名調査報告書	H26
	末広	末広	末広地名調査報告書	H26
	上原	上原	上原地名調査報告書	H26
	下県	下県	「下県区誌」続編 古い地名編 美篤下県古い地名調査報告書	H27
	上川手	上川手	上川手の古い地名 上川手地名調査報告書	H27
	青島	青島	青島地名調査報告書	H27
	全域		美篤歴史・地名ものがたり	H31

地区		調査グループ	報告書名	発行年
手良	手良中坪	手良中坪	手良中坪区地名調査	H27
	野口	野口	野口区地名調査報告書	H26
	下手良	下手良	下手良の地名	H26
	八ツ手	八ツ手	八ツ手の地名	H26
	全域		手良歴史・地名ものがたり	H31
東春近	車屋	車屋	車屋区 地名調査報告書	H28
	中組	中組	東春近中組地名調査報告書	H25
	渡場	渡場	地名「渡場」の由来	H25
	木裏原	木裏原	語り継ぎたい木裏原の由来・地名の由来	H25
	中殿島	中殿島	伊那市 東春近 中殿島地名調査報告書	H25
	下殿島	下殿島	東春近「下殿島グループ」地名調査報告書	H25
	田原	田原	大字 田原 字 古地名	H25
	原新田	原新田	伊那市 東春近 原新田地名調査報告書	H25
	榛原	榛原	東春近榛原地区の地名調査結果報告	H25
	暁野	暁野	伊那市 東春近 暁野区地名調査報告書	H25
	全域		東春近歴史・地名ものがたり	H31
西箕輪	大泉新田	大泉新田	大泉新田地名調査報告書(我が郷土を知ろう！学ぼう！)	H25
	吹上	吹上	吹上地名調査報告書	H25
	羽広	羽広	羽広の地名調査報告書 — 検地帳(江戸時代)～土地台帳(明治時代)を中心に —	H26
	上戸	上戸	上戸地名調査報告書 — 上戸のことを知ろう・残していこう —	H25
	中条	中条	西箕輪中条地名調査報告書	H26
	与地	与地	伊那市 西箕輪 与地地区 地名調査報告書	H25
	大萱	大萱	大萱地区の「地名」「字名」調査報告	H25
	全域		西箕輪歴史・地名ものがたり	H31
西春近	小屋敷	小屋敷	小屋敷地名調査	H27
	山本	山本	山本の地名と菖蒲澤	H26
	小出一	小出一	古い地名と昔の小出 — 小出一区地名調査報告書 —	H27
	小出島	小出島	小出島区 地名調査報告書	H26
	小出三	小出三	小出三区の古い地名	H28
	沢渡	沢渡	地名は先人が生きた証言者 長野県伊那市西春近 沢渡の地名調査	H27
	諏訪形	諏訪形	西春近・諏訪形 地名調査報告書	H26
	赤木	赤木	古い地名と昔の赤木 西春近赤木地名調査報告書	H26
	下牧	下牧	下牧の地名 —地名から歴史をさぐる— 下牧区地名調査 報告書	H27
	表木	表木	西春近表木地名調査報告書	H26
	全域		西春近歴史・地名ものがたり	H31

地区		調査グループ	報告書名	発行年
高遠町	高遠	西高遠・東高遠	高遠地区の地名由来	H28
		東高遠	東高遠の地名 -高遠地区の地名の由来-	H28
	長藤	長藤	長藤設立記念誌 おさふじの地名と歴史	H28
	藤沢	片倉	片倉の地名	H28
		御堂垣外・松倉	高遠町藤沢御堂垣外・松倉 地名調査報告書	H28
		水上	古い地名調査「水上」報告書	H28
		荒町	荒町の地名	H29
		北原	北原の地名と歴史	H28
		台殿	台殿区の地名調査	H29
	河南	勝間	高遠町勝間 地名調査報告書	H28
		小原	小原の地名	H27
		引持	引持今昔ものがたり（引持の歴史）	H28
		下山田	歴史の重み 下山田に今も残る地名を尋ねて	H28
		越道	古の地名から知る越道	H28
		金井	続 金井のあゆみ 地名編	H28
	全域		高遠歴史・地名ものがたり	H31
長谷	非持	非持	非持区の地名を尋ねて	H27
	溝口	溝口	長谷地区 溝口調査グループ 中間報告書	H27
	中尾	中尾	中尾地区・地名調査	H27
	杉島	杉島	長谷杉島区の地名	H28
	全域		長谷歴史・地名ものがたり	H31
全域		伊那市村名と小字名の変遷	H28	
全域		伊那市の民話・伝承	H31	

伊那市歴史文化基本構想 資料編

令和2年(2020)3月

編集・発行 伊那市教育委員会

〒396-8617 長野県伊那市下新田 3050 番地

電話 : 0265-78-4111(代)

email : sgs@inacity.jp
